ノートパソコン
ハードウェア ユーザーマニュアル

J4249 / 2009年 1 月

もくじ

1. ノートパソコンの概要

本マニュアルについて....6
本マニュアルの表記について....6
ノートパソコンを準備する....9

2. 各部の名称と説明

上面....12
底面....14
左側....16
右側....18
背面....19
前面....21

3. 使用の手引き

パワーシステム....24
ACアダプタを使用する....24
バッテリパックを使用する....25
バッテリの取り扱い方....26
電源をオンにする....27
パワーオンセルフテスト（POST）....27
バッテリの残量の確認....28
バッテリパックを充電する....28
電源オプション....29
電源管理....30
熱パワーコントロール....30
キーボードを使用する....31
ホットキー....31
Microsoft Windows™キー....33
拡張キーボード....33
ボタン、スイッチとステータスインジケータ....34
マルチメディアコントロールキー（特定モデルのみ）....37

もくじ（続き）

4. ノートパソコンを使用する

ポインティングデバイス 40
タッチパッドの使い方 41
タッチパッドのお手入れ 42
記憶装置 43
拡張カード 43
光学ドライブ 44
ハードディスクドライブ 47
接続 48
モデム接続（特定モデルのみ） 48
ネットワーク接続 49
Windows 無線ネットワーク接続 51
Bluetooth無線接続（特定モデルのみ） 52

付録

オプション（アクセサリ） 54
オプション（接続形態） 55
サポートするソフトウェア 58
Windows® Vista™ リカバリーソフトウェア（オプション） 67
用語集 69
Declarations and Safety Statements 73
DVD-ROMドライブ情報 73
内蔵モデムの適応規格(規格/プロトコルなど原文掲載) 74
オーナー情報 83

1. ノートパソコンの概要

本マニュアルについて
本マニュアルの表記について
安全上の注意
ノートパソコンを準備する

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

本マニュアルについて

本書は、本機のユーザーマニュアルです。本書では 本機の構成部品の説明やその使い方について説明します。本書は以下の章から構成されています。

1. **ノートパソコンの概要**

   本機と本ユーザーマニュアルの概要です。

2. **各部の名称と説明**

   本機の構成部品について解説します。

3. **使用の手引き**

   本機を最初にお使いになる時に必要な情報です。

4. **ノートパソコンを使用する**

   本機の各機能の使い方です。

付録

オプションの紹介と参考資料です。

本マニュアルの表記について

注意事項等は重要性によって以下のように区別されています。

注:作業を完了するために必要な追加情報です。

ヒント:作業の参考になるヒントです。

重要:本体の破損、データの消失および人体への障害を防止するために必ず行わなければいけない事項です。

警告:本体の破損、データの消失および人体への障害を防止するための情報です。

< > キーボードのキーは<>を、選択項目は[ ]や「」で囲んで表記し、()は補足説明に用いています。
[ ] キーボード入力の際、これらの表記括弧は必要ありません。

安全上の注意

本機を末長くお使いいただくために以下の注意事項を守ってください。本マニュアルに記載されていない事項については、技術者等にご相談ください。損傷のある電源コードや周辺機器を使用しないでください。本体のお手入れに、シンナー・ベンジンなどの化学薬品を使用しないでください。

重要：本機のお手入れの際は、電源を切りAC電源アダプタとバッテリパックを取り外してください。清潔なスポンジまたは柔らかい布に研磨材の含まれていない洗剤を温水で薄めたものを数滴含ませ、汚れを拭き取ってください。最後に乾いた布を使って余分な水分を完全に取り除いてください。

禁止：平らでない、不安定な場所に置かないでください。筐体を破損した場合には、代理店にご連絡ください。

禁止：ディスプレイを強く押したり、パネルを傷つけたり本体に入り込むようような物とは一緒にしたりしないでください。

禁止：ホコリや汚れの多い環境下に置かないでください。ガス漏れの恐れがある場所で使用しないでください。

禁止：本機の使用中は、底面が熱くなります。ひざの上など人体に長時間接触させて使用すると火傷を負う恐れがあります。

禁止：本機は 10°～35°の周辺温度でご使用ください。

禁止：上に物を置いたり落としたりしないでください。内部に異物が入らないようにしてください。

禁止：強い磁気を近づけないでください。

禁止：液体・雨・湿気を避けてください。雷の発生時はモデムを使用しないでください。

バッテリの管理：
火中に投じないでください。
回路をショートさせないでください。
分解しないでください。

入力定格：本機の底部に記載があります。電源アダプタが対応していることを確認してください。

禁止：本機の電源がONの状態で持ち運んだり、キャリーバッグの中に入れたりしないでください。通気が妨げられ、故障の原因となります。

リサイクル：本製品のコンポーネントの中にはリサイクルできるよう設計されているものがあります。なお、本製品は水銀ボタン電池を含む電子機器です。本製品を一般ゴミとして廃棄しないでください。リサイクル、廃棄の際は電子機器の廃棄に関する地域の条例等に従ってください。

禁止：バッテリを一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄の際は電子機器の廃棄に関する地域の条例等に従ってください。

運搬時の注意

本機を持ち運ぶ場合は電源をOFFにし、ディスプレイパネルを閉じてください。また電源をOFFにした後、**すべての外部周辺機器を取り外してください。**電源がOFFになるとハードディスクの表面を守るため、ハードディスクドライブのヘッドが戻ります。本機を移動するときは、必ず電源をOFFにしてください。キーボードやディスプレイを保護するため、ディスプレイパネルが閉じていることを確認してください。

重要：ノートパソコン本体の表面の「ツヤ」は、正しく扱わないと失われてしまいます。本体表面をこすったりひっかいたりしないように注意してください。

ノートパソコンのケース

本機を汚れ・水・衝撃・傷から保護するために、携帯用ケースの使用をお勧めします（ケースは別売りの場合もあります）。

バッテリの充電

ACアダプタが本機とコンセントに接続されていれば、バッテリは自動的に充電されます。本機の電源がONの場合は充電時間は長くなります。

航空機内での使用について

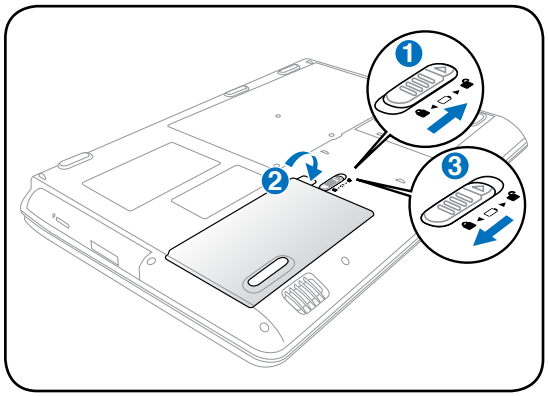
航空機内での本機の使用については、各航空会社にお問い合わせください。多くの航空会社では、電子機器の使用に対して規定を設けています。一般的に離着陸時の電子機器の使用は禁止されています。

重要：空港のセキュリティ装置には３つのタイプがあります。X線装置（荷物用）、磁気センサ（セキュリティゲートを通過する人間用）、および磁気ワンド（人間や小物用の短い棒）です。ノートパソコンやハードディスクをX線装置に通すことは問題ありませんが、磁気センサや、磁気ワンドは避けてください。

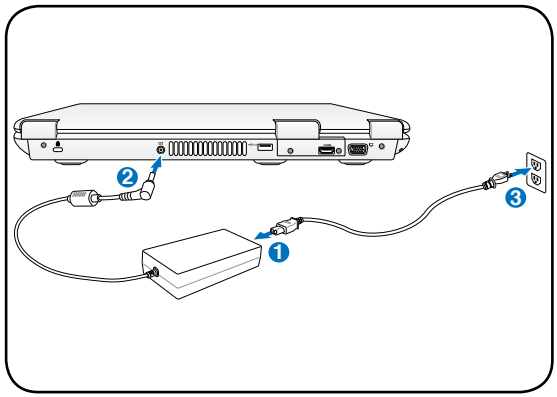
ノートパソコンを準備する

ノートパソコンの基本的な取り扱い方の説明です。

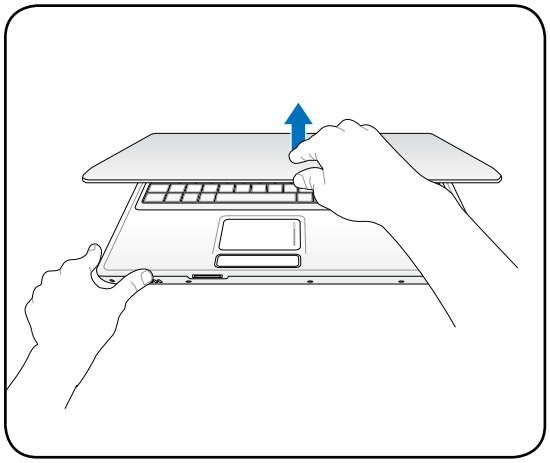
1. バッテリパックの取り付け



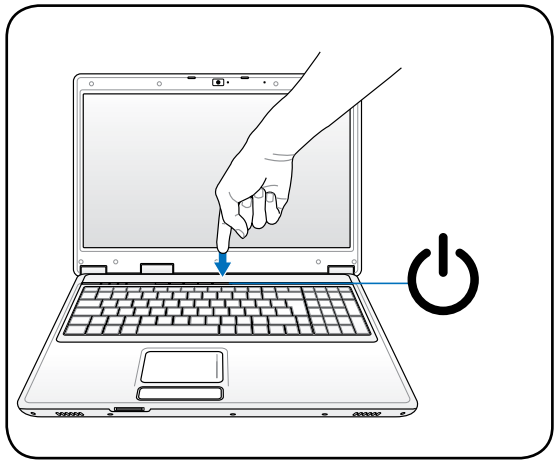
2. AC電源アダプタの接続



3. ディスプレイを開く



4.電源をONにする



警告：ディスプレイを無理に開かないでください。ヒンジを破損する原因となります。また、ディスプレイを持って、パソコン本体を持ち上げないでください。

電源ボタンは、電源のON/OFFの切り替えや、スリープモード/休止モードに切り替える際に使用します。初期設定値では、起動中に電源ボタンを押すとスリープモードに入るよう設定されています。電源ボタンの動作はコントロールパネルの「電源オプション」でカスタマイズすることができます。

2. 各部の名称と説明

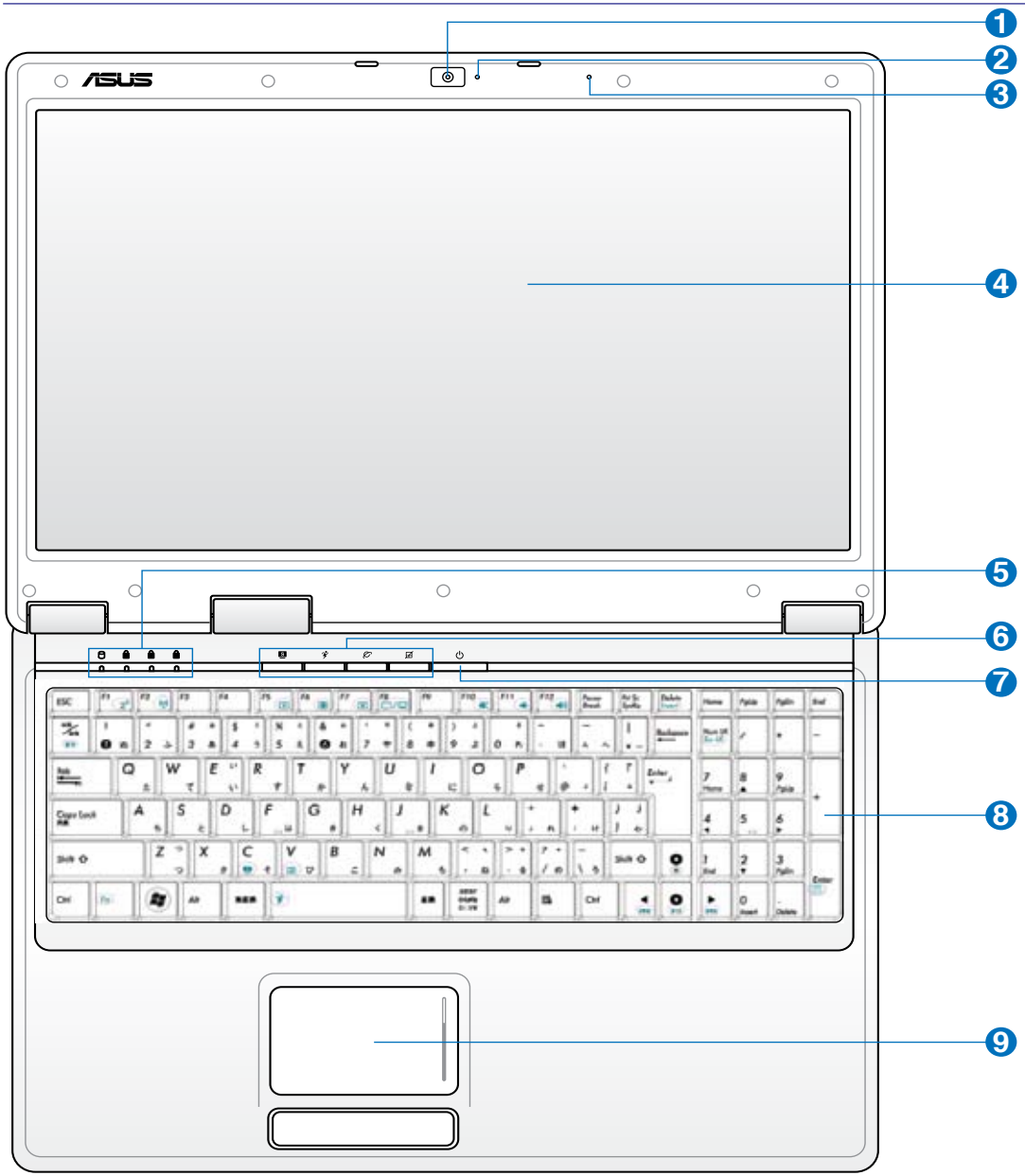
ノートパソコンの各部の名称についての説明

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

上面

下図は、本機本体の上面の図です。

注:キーボードのレイアウトはお買い上げの地域により異なります。



❶ カメラ（特定モデルのみ）

内蔵カメラにより、画像の撮影と動画の録画ができます。各種アプリケーションやビデオ会議等にご活用ください。

❷ カメラインジケータ

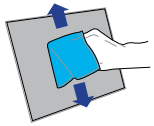
内蔵型カメラの使用時に点灯します。カメラはサポートしているソフトウェアにより自動で起動します。

❸ マイク（内蔵型）

内蔵型モノラルマイクロホンは、ビデオ会議、ナレーション、簡単な録音などの用途に使用することができます。

❹ ディスプレイ

本製品はアクティブマトリックス方式TFT液晶を採用しており、デスクトップモニタと変わらない視認性を発揮します。また、ノイズやちらつきもなく、目に負担をかけません。お手入れの際は、合成洗剤を避け、柔らかい布で拭き取るようにしてください（必要に応じて蒸留水を少し含ませてください）。



❺ ステータスインジケータ（トップ）

ハードウェア/ソフトウェアの状態を表示します。詳細は本マニュアル以降の記載をご覧ください。をご覧ください。

❻ インスタントキー

ワンタッチでよく使用する機能を起動することができます。詳細はページ34をご覧ください。

❼ 電源ボタン

電源ボタンは、電源のON/OFFの切り替えや、スリープモード/休止モードに切り替える際に使用します。電源ボタンの動作はコントロールパネルの「電源オプション」でカスタマイズすることができます。

❽ キーボード

キーボードには十分なストロークを持たせてあり、パームレストが付いているため快適な操作が可能です。また、Windows™ファンクションキーが 2 つ付いています。

❾ タッチパッドとタッチパッドボタン

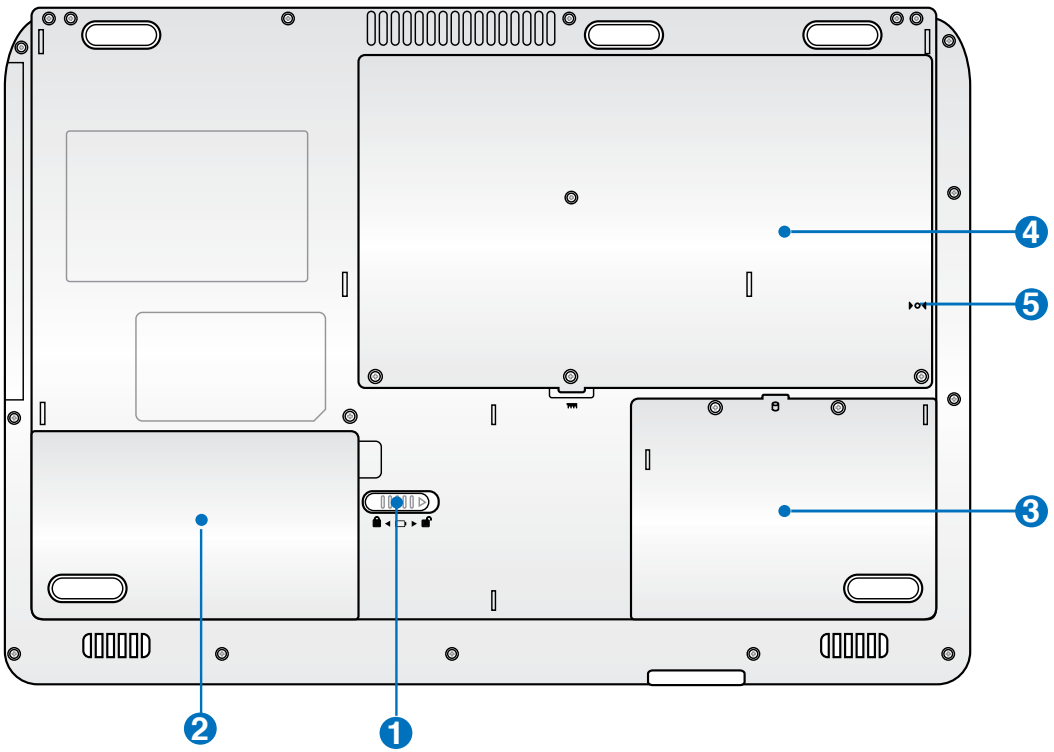
タッチパッドとボタンはマウスと同等の機能を提供するポインティングデバイスです。タッチパッドユーティリティをセットアップすれば、ソフトウェア制御のスクロール機能を利用でき、Web 画面や文書の閲覧に便利です。

底面

下図は本機本体の底面の図です。

注:モデルによって底面の外観は多少異なります。

注意:バッテリパックのサイズはモデルにより異なります。



警告:充電中や操作中は、本機の底面は高温になります。通気孔をふさぐ恐れがありますのでソファやベッドのような柔らかい面の上で使用しないでください。また、火傷の原因となりますので本機を膝または身体の他の部分に載せて操作しないでください。

❶ バッテリロック（手動）

バッテリの取り付け/取り外しの際はこのロックを解除し、取り付け後はしっかり所定の位置にロックしてください。

❷ バッテリパック

バッテリパックはACアダプタを接続すると自動的に充電し、ACアダプタが取り外されているときは、パソコンに電力を供給します。バッテリパックを装備していれば、さまざまな場所でパソコンを利用することが可能です。バッテリ駆動時間はパソコンの使用法、仕様により異なります。バッテリパックは分解しないでください。

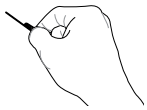
❸ ハードディスクドライブ コンパートメント

ハードディスクドライブは収納部に固定されています。
保証対象外となりますので部品交換などは行わないようにしてください。

❹ メモリ（RAM）コンパートメント

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが 2 つ搭載されています。ご購入いただいた時点でスロットは使用されているため、メモリの追加、増設は行えません。
注：お客様のメモリ換装に起因するトラブルはASUSのサポート対象外です。ご了承ください。

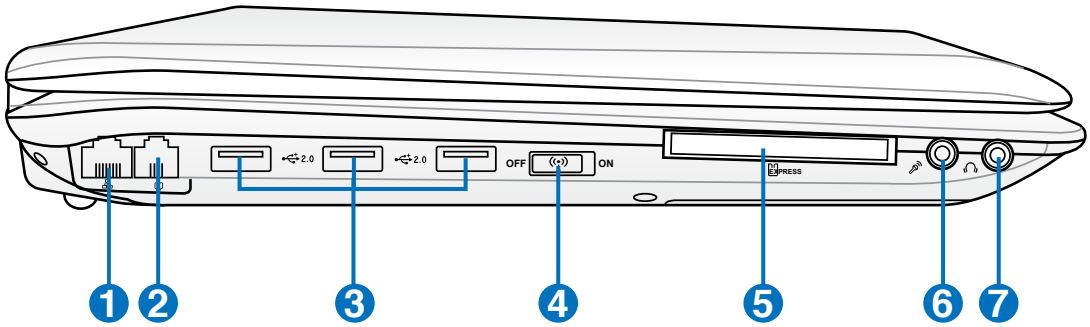
❺ リセットボタン（緊急時）



OSを正しく終了したり再起動したりできない場合、クリップなどでリセットボタンを押して本機を一度シャットダウンしてください。なお、保存が完了していない作業中のデータなどは削除されます。

左側

下図は本機本体の左側の図です。



❶ LANポート

8ピンのRJ-45 LANポートはRJ-11モデムポートよりも大きく、ローカルネットワークに接続するための標準イーサネットケーブルをサポートします。増設アダプタ不要の便利な内蔵コネクタです。

❷ モデムポート（特定モデルのみ）

2ピンのRJ-11モデムポートはRJ-45 LAN ポートより小さく、標準の電話ケーブルをサポートします。内蔵モデムは最高56K V.90での転送速度をサポートします。増設アダプタ不要の便利な内蔵コネクタです。

重要：内蔵型のモデムでは、デジタル電話システム（ISDN）で使用されている電圧に対応していません。破損の原因になりますので、内蔵型のモデムをデジタル電話システム（ISDN）には接続しないでください。

❸ USBポート（2.0/1.1）

USBポートはUSB2.0とUSB1.1の互換仕様となっており、キーボード、ポインティングデバイス、カメラ、ストレージなどが接続できます。USB1.1接続は最大12Mbits/sec、USB2.0接続は最大480Mbits/secの転送速度に対応します。USBはハブのように機能するUSBキーボードやモニタなどの周辺機器と併用すれば、1台のコンピュータで同時に複数のデバイスの使用が可能になります。また、USBはホットプラグに対応しているので、周辺機器の取り付け・取り外しが再起動せずに行えます。

❹ 無線スイッチ

内蔵無線LANとBluetooth（特定モデルのみ）のONとOFFを切り替えます。有効にすると対応する無線インジケータが点灯します。無線LANとBluetooth を使用するにはWindows ソフトウェアの設定が必要です。

❺ ExpressCardスロット

この26ピンの拡張カードスロットは、ExpressCard/34mm 拡張カード1枚、またはExpressCard/54mm 拡張カード1枚に対応します。この新型インターフェースは、USB2.0とPCI Express 対応のシリアルバスを採用し、PCカードスロットに使用されている旧型のパラレルバスより高速です。（旧型のPCMCIAカードには対応していません）
付属のダミーカード（特定モデルのみ）は、メモリカードホルダーとしても利用することができます。

❻ SPDIF出力ジャック

デジタルオーディオ出力のためのS/PDIF（Sony/Philips Digital Interface）デバイスを接続できます。hi-fi ホームエンターテイメントシステムとしてご利用できます。

ヘッドホン出力ジャック

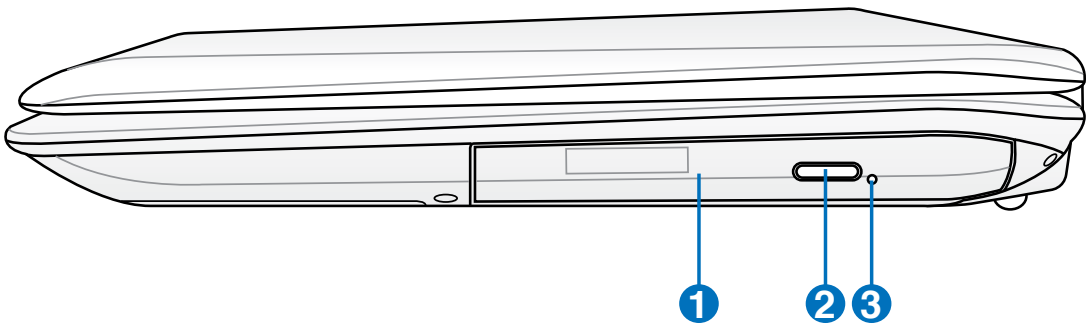
本機に外付けスピーカーまたはヘッドホンを接続するには、ステレオヘッドホンジャック（1/8インチ）を使います。このジャックの使用を開始すると、内蔵スピーカーは自動的に無効となります。

❼ マイク入力ジャック

モノラルマイクジャック（1/8インチ）は、外付けのマイクの接続、またはオーディオデバイスからの出力を入力するときに使います。このジャックを使用すると内蔵マイクは自動的に無効になります。ビデオ会議や、音声ナレーション、簡単な録音にご使用ください。

右側

下図は本機本体の右側の図です。



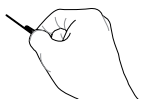
❶ 光学ドライブ

ノートパソコンのモデルにより光学ドライブのタイプは異なります。CD・DVDをサポートしたものや、Recordable (R) または、Re-Writable (RW) をサポートしたものがあります。各モデルの詳細については仕様をご覧ください。
なお、CPRMには対応しておりません。

❷ 光学ドライブ電子イジェクト

光学ドライブの取り出しは電子イジェクトボタンにて行います。また、ソフトウェアプレイヤーや、Windows™ の「マイ コンピュータ」の光学ドライブを右クリックし、「取り出し」を選択することで、取り出すことも可能です。また、光学ドライブアクティブインジケータとしても機能し、データのやり取りを行っているときは、そのデータの大きさに応じてインジケータが点灯します。

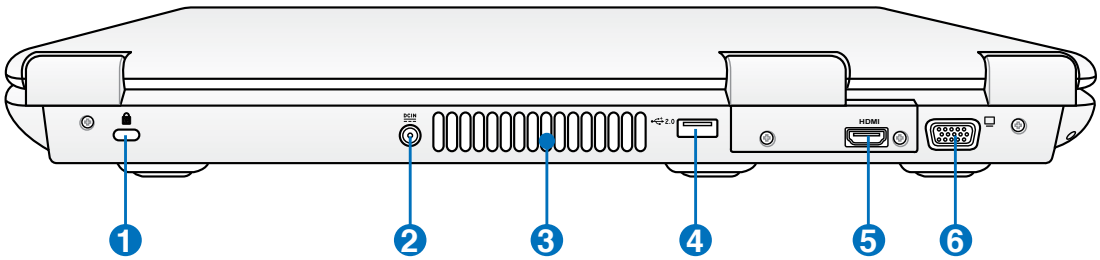
❸ 光学ドライブ緊急イジェクト (モデルにより位置は異なる)



電子イジェクトが動作しない場合に使用します。電子イジェクトが正常に動作している場合は、緊急イジェクトを使用しないでください。故障の原因となります。

背面

下図は本機本体の背面の図です。



❶ Kensington® ロックポート

Kensington® 互換ノートパソコンセキュリティ製品と併用して、本機を固定することができます。これらのセキュリティ製品には通常メタルケーブルとロックが含まれ、固定された物体から本機を取り外せないようにしてあります。一部のセキュリティ製品には、動かすとアラームが鳴るものもあります。

❷ DCIN 電源入力

このジャックに付属のACアダプタを接続します。ACアダプタはAC電源をDC電源に変換し、本機に電力を供給しバッテリパックを充電します。本機とバッテリパックの損傷を防ぐため、常に付属のACアダプタを使用するようにしてください。

注：本機は使用中高温になることがあります。身体に密着して使用しないでください。火傷の原因になります。

❸ 通気孔

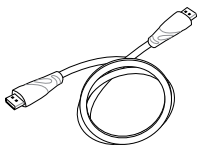
通気孔により本体から熱を逃がします。

重要：紙、本、衣類、ケーブルまたはその他の物で通気孔を塞がないようにしてください。オーバーヒートの原因となります。

❹ USBポート（2.0/1.1）

USBポートはUSB2.0とUSB1.1の互換仕様となっており、キーボード、ポインティングデバイス、カメラ、ストレージなどが接続できます。USB1.1接続は最大12Mbits/sec、USB2.0接続は最大480Mbits/secの転送速度に対応します。USBはハブのように機能するUSBキーボードやモニタなどの周辺機器と併用すれば、1台のコンピュータで同時に複数のデバイスの使用が可能になります。また、USBはホットプラグに対応しているので、周辺機器の取り付け・取り外しが再起動せずに行えます。

❺ HDMI HDMI ポート（特定モデルのみ）



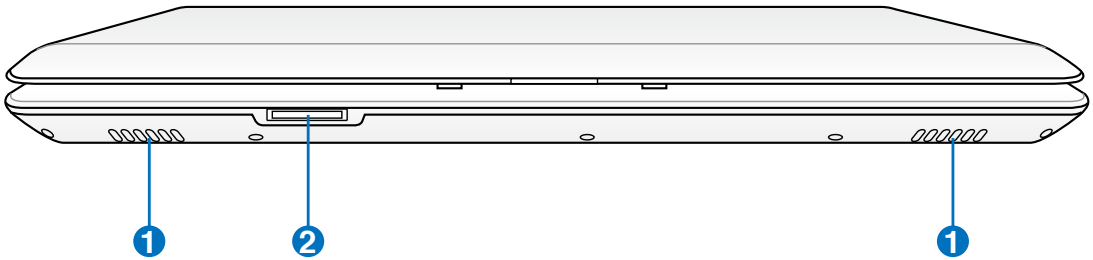
HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は非圧縮型オールデジタルオーディオ/ビデオインターフェースです。セットトップボックスやDVDプレーヤー、A/V レシーバーなどのあらゆるオーディオ/ビデオソース、オーディオ、デジタルテレビ (DTV)、ビデオモニターに対応。標準型/エンハンス/HDビデオをサポートし、これらマルチチャンネルデジタルオーディオを 1 本のケーブルで転送します。全ての ATSC HDTV 規格の転送が可能で、8 チャンネルデジタルオーディオもサポートします。また、帯域が高いため、今後の技術革新に対応可能です。なお、著作権保護技術の 1 つであるHDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）にも対応していますので、著作権保護コンテンツの再生も可能です。

❻ ディスプレイ（モニタ）出力

D-sub 15ピンモニタポートは、モニタやプロジェクタなどの標準のVGA互換デバイスをサポートし、それらに画面を表示することが可能です。

前面

下図は本機本体の前面の図です。



❶ オーディオスピーカーシステム

内蔵のステレオスピーカーシステムにより、特別な機能を追加せずに音楽をお楽しみいただけます。マルチメディアサウンドシステムはデジタルオーディオコントローラを搭載し、外部ステレオヘッドホンやスピーカーを使用することにより、より豊かで響くサウンドを作り出します。オーディオ機能はソフトウェア制御です。

❷ フラッシュメモリスロット

通常、デジタルカメラ、MP3 プレイヤー、携帯電話、PDA などのメモリカードをパソコンで使用するには、外付けのメモリカードリーダー を別途ご購入いただく必要がありますが、本ノートパソコンには数種類のフラッシュメモリカードを書き込み、読み取ることのできる高速のメモリカードリーダーが内蔵されています。サポートしているメモリカードは本マニュアルの以降の記載をご覧ください。

3. 使用の手引き

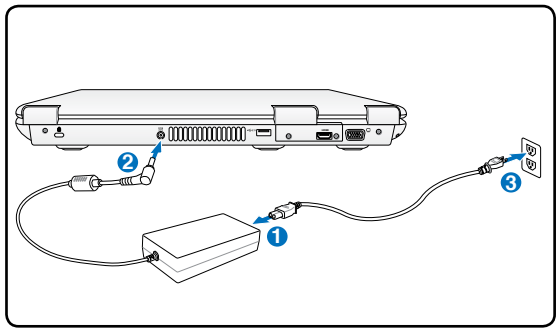
ACアダプタを使用する
バッテリパックを使用する
電源をONにする
バッテリの残量の確認
電源オプション
電源管理
キーボードを使用する
ボタン、スイッチとステータスインジケータ

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

パワーシステム

ACアダプタを使用する

本機のパワーシステムには、ACアダプタとバッテリパワーシステムの２つがあります。ACアダプタはAC電源をノートパソコンに使うためにDC電源へ変換するものです。本機にはユニバーサルAC-DCアダプタが付属しているので、スイッチやコンバータを使わずに100V-120Vおよび220V-240Vの電源に接続することができます。国によっては、変換アダプタを使用して、付属のAC電源コードを異なる規格に変更することが必要な場合もあります。通常、ホテルでは異なる電源コードと電圧をサポートするユニバーサルコンセントを備えていますが、電源アダプタを他の国で使う場合は、コンセントの電圧について事前にご確認ください。



ヒント：市販品では多くの国と地域に対応しているノートパソコン用のトラベルキット（電源アダプタ・モデムアダプタ）なども販売されています。

注：市販のトラベルキットについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点は、トラベルキットの販売店にご相談ください。

警告：DCプラグを本機に接続する前に、AC電源コードを電源コンセントに接続しないでください。AC-DCアダプタの故障の原因となることがあります。

重要：指定外のアダプタで本機に電力を供給しないでください。また、付属のACアダプタとAC電源コードを他の製品に使用しないでください。故障の原因となります。ACアダプタから煙が出たり焦げくさい臭いがした場合や、ACアダプタが異常に熱くなった場合は修理をご依頼ください。故障したACアダプタの使用はバッテリパックと本機の破損の原因となります。

注：本製品には、地域によって２芯または３芯のプラグが添付されています。3芯プラグの場合は、３芯用のコンセントまたは適応するアダプタを使用して安全にお使いください。

警告：使用中は高温になることがあります。身体に密着して使用しないでください。火傷の原因になります。

ヒント：本機を使用しないときは、電源アダプタを抜くか、AC電源をOFFにしてください。電力消費を抑えることができます。

バッテリパックを使用する

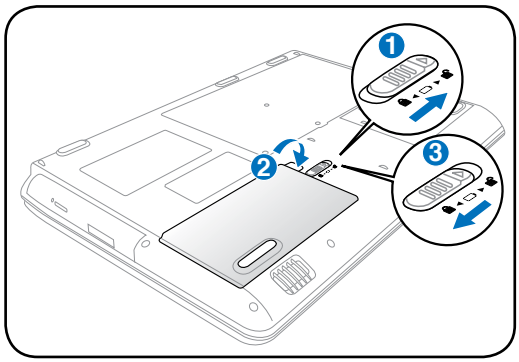
本製品のバッテリパックは取り外しが可能です。バッテリパックは、電池をまとめて 1 つにしたもので、ACアダプタを使用しない状態でも数時間電力を供給することが可能です。また、BIOSでのパワーマネジメント機能を利用してより長く電力を保つことができます。

バッテリパックの取り付けと取り外し

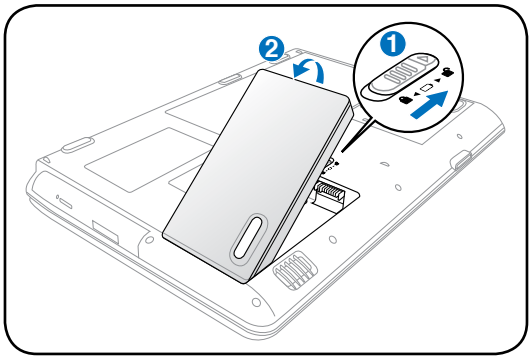
出荷時にバッテリパックが取り付けられていない場合があります。取り付けられていない場合は、次の手順で取り付けてください。

重要：本機の電源をONにしているときは、絶対にバッテリパックを取り外さないでください。データ消失の原因となることがあります。

バッテリパックの取り付け方



バッテリパックの取り外し方



重要：バッテリパックとACアダプタは、本機に付属のもの、または本モデル用にメーカーや販売店が指定したものを使用してください。本機の故障の原因となります。

バッテリの取り扱い方

本機のバッテリパックは、ほかの充電可能なバッテリと同じく消耗品です。寿命は温度や湿度、および本機の使い方によって異なります。理想的なバッテリの操作温度範囲は10℃～35℃ですが、本機の内部温度は外部温度より高くなることを考慮に入れ、この範囲外の温度で使用すると、バッテリの寿命は短くなります。また、正しく使った場合でも、バッテリパックの稼働時間は次第に短くなります。

警告：危険ですので、バッテリを火中に投じないでください。また回路をショートさせたり、分解したりしないでください。衝撃により異常やダメージがバッテリパックに発生した場合は本機の電源を切り正規サービスセンターにお問い合わせください。

電源をオンにする

電源をオンにすると、本機の電源オンメッセージがスクリーンに表示されます。必要に応じ、ホットキーを使用して輝度を調節することができます。システム構成を設定または修正するためにBIOSセットアップを実行する場合は、起動時に<F2>を押してBIOSセットアップに入ります。スプラッシュスクリーンの間に<Tab>を押すと、BIOSバージョンなどの起動情報が表示されます。 なお、BIOSに入る際は、キーを複数回連打する必要があり、タイミングがずれるとOSが起動します。 <ESC>を押すと、利用可能なデバイスから選択して起動するための、起動メニューが表示されます。

注：起動する前に、再度電源をオンにするとディスプレイパネルが点滅します。これは本機のテストルーチンの一部で、ディスプレイの故障ではありません。

重要：ハードディスクドライブを守るために、電源が切れてから再度電源を入れるまで 5 秒以上時間をおいてください。

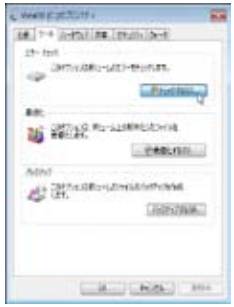
警告：電源がオンのまま本製品を持ち運ばないでください。またキャリーバッグに入れたり、カバーをしたりしないでください。通気が悪くなり故障の原因となります。

パワーオンセルフテスト（POST）

本機の電源をオンにすると、パワーオンセルフテスト（POST）と呼ばれる一連のソフトウェア制御の診断テストが実行されます。POSTを制御するソフトウェアは、ノートパソコンアーキテクチャの固定部分としてインストールされています。POSTには、本機のハードウェア構成に関する記録が含まれており、システムの診断チェックに使用されます。この記録は、BIOSセットアッププログラムを使用することによって作成されます。POSTが記録と既存のハードウェア間の相違を検出すると、BIOSセットアップを実行することによって、相違を訂正するように要求するメッセージがスクリーンに表示されます。テストが完了すると、ハードディスクにOSがインストールされていない場合は、「OSが見つかりません」というメッセージが表示されます。これは、ハードディスクが正しく検出され、新しいOSをインストールする準備ができたことを示します。

S.M.A.R.T.

S.M.A.R.T.（Self Monitoring and Reporting Technology）はPOST中にハードディスクドライブをチェックし、ハードディスクドライブを修理する必要がある場合、警告メッセージを表示します。起動中にハードディスクドライブの警告が表示されたら、データを直ちにバックアップしWindowsのディスクチェックプログラムを実行してください。このディスクチェックプログラムを実行するには、「スタート」ロゴ→「コンピュータ」→ハードディスクドライブのアイコンを右クリック→「プロパティ」→「ツール」タブ→「チェックする」→「開始」を選択します。「不良セクタをスキャンし、回復する」を選択すると、時間はかかりますがより詳細なスキャンと回復作業を行うことができます。
なお、警告メッセージが頻繁に表示される場合は、サポートセンターにご相談ください。



重要：ディスクチェックユーティリティを実行した後にも、起動中にメッセージが表示される場合、ハードウェアの不具合の可能性が高く、本機の修理が必要な場合もあります。また、そのまま使用すると、データが消失することがあります。

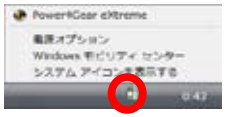
バッテリの残量の確認

この機能ではバッテリ残量をパーセンテージで正確に表示します。フル充電のバッテリで2～3時間ノートパソコンを起動させることが可能ですが、実際は、省電力機能をどのように使うか、またCPUやメモリ、ディスプレイパネルのサイズによっても異なります。

注：写真は参照用です。実際はシステムにより異なる場合があります。

注：バッテリ残量が少ないままパソコンを使い続けると、パソコンはスリープ状態になります。（Windows 初期設定値はSTR）

バッテリアイコンをクリック



バッテリアイコンを右クリック

電源アダプタ未接続時のバッテリアイコン

電源アダプタ接続時のバッテリアイコン

警告：Suspend-to-RAM（STR）状態でも一定の電力を消費するため、バッテリ残量が少ないと長時間維持できません。Suspend-to-Disk（STD）状態では消費電力は大幅に減りますが、これも電源がOFFの状態とは異なるので、電源が完全になくなるとパソコンは切れてしまいます（電源アダプタもバッテリも取り外した場合など）。

バッテリパックを充電する

外出先でノートパソコンを使用する前に、まずバッテリパックを充電する必要があります。ノートパソコンにACアダプタを接続することで充電は開始されます。新しいバッテリパックを使用の際は、バッテリパックをフル充電してください。バッテリパックを完全に充電するのに、電源をオフにしているときは2～3時間かかり、オンにしているときはその倍の時間がかかります。バッテリパックの充電が完了すると、バッテリの充電ランプがオフになります。

バッテリの充電は、バッテリ残量が95%以下になると始まります。これはバッテリが過度に充電されることを防ぐためで、バッテリの寿命を延ばす効果があります。

注：気温が高すぎたり、電圧が高すぎるとバッテリは充電されません。

警告：バッテリは放電状態のまま放置しないでください。また、充電機能を維持するため、使用しないときは最低３ヶ月に１回充電することをお勧めします。

電源オプション

電源ボタンは、電源のオン/オフの切り替えや、スリープモード/休止モードに切り替える際に使用します。電源ボタンの動作はコントロールパネルの「電源オプション」でカスタマイズすることができます。

「ユーザーの切り替え」や「再起動」などを実行する場合は、「▶」をクリックします。

再起動

OSの設定を変更した後などは、システムを再起動するように求められます。一部のインストールプログラムでは、再起動を促すダイアログボックスが表示されます。システムを手動で再起動する場合は、「**再起動**」を選択します。

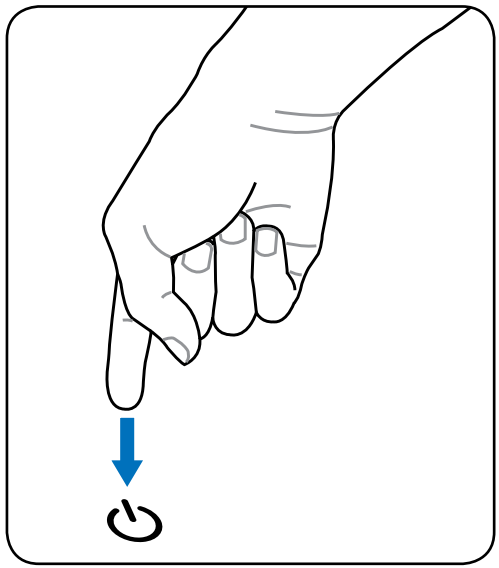
重要：HDDの保護のため、電源をオフにしてからもう1度電源を入れるまで最低5秒待機してください。

緊急のシャットダウン

ご使用のOSを適切に終了したり再起動したりできなくなった場合は、以下の方法で本機をシャットダウンします。

電源ボタン ⏻ を4秒以上押し続けます。

重要：データ書き込み中に、シャットダウンを行わないでください。データ消失の原因となります。



電源管理

本製品には各種省電力機能が搭載されており、バッテリの寿命を最大限に伸ばし、総所有コスト（TCO）の削減に有効です。BIOSセットアップで、これらの機能の一部が設定可能です。起動中に<F2>キーを押してBIOSセットアップに入り、セキュリティタブより「I/O Interface Security」を選択します。その中で使用しないInterface を [LOCKED] に設定することにより、電力供給を断ち長く電力を保つことができます。
ACPI 電源管理設定はOSを通して行えます。電源管理機能はコンポーネントを頻繁に低消費電力モードにする一方、システムの要求に最大限対応可能で、可能な限り電力を節約できるように設計されています。

スリープと休止状態

電源管理設定はWindows の「コントロールパネル」の「電源オプション」で行います。左メニューの各項目を選択すると、「電源ボタンを押したときの動作」、「スリープボタンを押したときの動作」、「カバーを閉じたときの動作」がそれぞれカスタマイズ可能です。選択オプションはドロップダウンリストから選択してください。
「スリープ」と「休止状態」は、一部のコンポーネントをオフにすることによって、本機を使用していないときの電力を節約します。作業を再開すると、作業中断状態が再度表示されます。一方「シャットダウン」した場合は、全てのアプリケーションが終了します。

「スリープ」はSTR（Suspend to RAM）と同じです。この機能は、多くのコンポーネントをオフにして、RAMに現在のデータと状態を保存します。RAMは不安定であるため、データを維持（リフレッシュ）するには一定の電力が必要です。
・操作方法：「**スタート**」→「▶」→「**スリープ**」を選択
　または、ショートカットキー<**Fn F1**>を押す
・復帰方法：<Fn>以外の任意キーを押す
　（注：スリープモードでは電源インジケータは点滅）

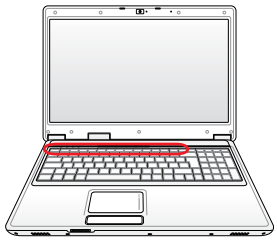
「休止状態」はSTD（Suspend to Disk）と同じでハードディスクドライブに現在のデータと状態を保存します。また、RAMを周期的にリフレッシュしないため「スリープ」よりも節電効果が高く、消費電力を大幅に抑えます。ただし、LANやモデム等の一部の呼び起こし用のコンポーネントに電力を供給するため、完全にオフにはなりません。
・操作方法：「**スタート**」→「▶」→「**休止状態**」
・復帰方法：電源ボタンを押す
　（注：休止状態では電源インジケータはオフ）

熱パワーコントロール

本製品は、3つの電源コントロールで熱を管理します。これらの電源コントロールは、ユーザー設定することはできません。次の温度は（CPUではなく）ケースの温度を表しています。

- 温度が上限に達すると、ファンがオンになってアクティブ冷却を行います。
- 温度が上限を超えると、CPUは速度を落としてパッシブ冷却を行います。
- 温度が最大上限を超えると、システムはシャットダウンして冷却を行います。

キーボードを使用する



ホットキー

コマンドが表記されたキーについて説明します。コマンドは、コマンドが表記されたキーを押しながら、Function キー<Fn>を押して実行します。

注：<Fn>キーの位置はモデルによって異なりますが、機能は同じです。

Zz アイコン（F1）：本機をスリープ状態にします。Save-to-RAMまたはSave-to-Diskは電源管理セットアップでのスリープボタンの設定により決定されます。

ラジオタワー（F2）：無線モデルのみ：オンスクリーンディスプレイ機能で内部無線LANまたはBluetooth（特定モデルのみ）のオン/オフを切り替えます。有効時は、対応する無線インジケータが点灯します。無線LANまたはBluetooth を使用するにはWindows のソフトウェア設定が必要です。

小さい太陽アイコン（F5）：
ディスプレイの輝度を下げます。

大きい太陽アイコン（F6）：
ディスプレイの輝度を上げます。

LCDアイコン（F7）：ディスプレイパネルのオン/オフを切り替えます。また、このアイコンは低解像度モードを使用しているときに画面を全画面表示にすることができます（一部のモデル）。

LCD/モニタアイコン（F8）：本機の液晶ディスプレイと外部モニタを次のように切り替えます：液晶ディスプレイ→外部モニタ→液晶＋外部モニター（クローンモード）→液晶＋外部モニター（スパンモード）。
この機能は256色モードでは動作しません。画面のプロパティ設定でHigh-Color（ハイカラー）選択してください）。
注意：外部モニタは本機を起動する前に接続してください。

スピーカーアイコン（F10）：
スピーカーのオン/オフを切り替えます。（Windows OSのみ）

スピーカーダウンアイコン（F11）：
スピーカーのボリュームを下げます。（Windows OSのみ）

スピーカーアップアイコン（F12）：
スピーカーのボリュームを上げます。（Windows OSのみ）

ホットキー（続き）

Scr LK（Num LK）：スクロールロックのオン/オフを切り替えます。セルをナビゲーションする場合に、キーボードの大部分を使用できるようにします。

[Fn]+[C]：「Splendid Video Intelligent Technology」機能のオンとオフを切り替えます。この機能はコントラスト、明るさ、色調、彩度（赤、緑、青を個々に調整）を変更してディスプレイの色彩モードを変える機能です。使用中のモードはオンスクリーンディスプレイ（OSD）機能で確認することができます。

[Fn]+[V]：「ASUS Life Frame」ソフトウェアを切り替えます。

Power4Gear eXtreme（Fn+Space Bar）：このボタンで各省電力モードの切り替えを行います。省電力モードはノートパソコンを制御し、パフォーマンス対バッテリ時間を最大化します。ACアダプタの脱着に応じ、自動的に適切なモード（ACまたはDC）に切り替えます。使用中のモードはオンスクリーンディスプレイ（OSD）機能で確認することができます。

Fn+Enter（拡張キーボード）：計算機のON/OFFを切り替えます。このホットキーの機能がご利用できるのは拡張キーボード側の「Enter」キーです。通常のキーボードの「Enter」キーはこの機能には対応していません。

Microsoft Windows™キー

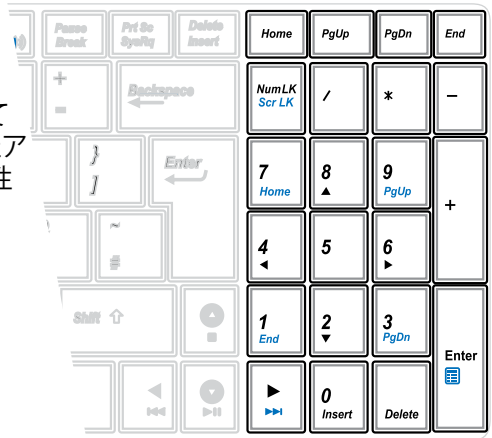
キーボードには下の説明のように、2つの特別なWindows™キーがあります。

Windows™ロゴの付いたキーは、Windows™画面の左下にある「スタート」メニューを有効にします。

小さなカーソルの付いたWindows™メニューのように見えるキーはプロパティメニューを有効にし、Windows™オブジェクトの右マウスボタンを押すのと同じ働きをします。

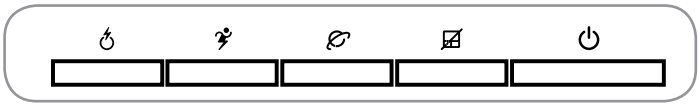
拡張キーボード

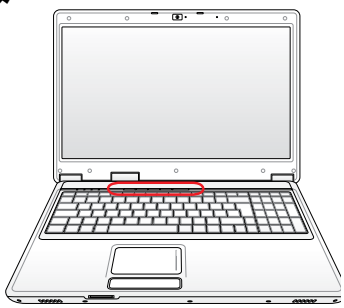
特定モデルのみの搭載です。このキーボードには機能が 2 つあり、機能の切り替えは<Num Lk / Scr Lk>キーで行います。数字入力キーとして使用すれば、頻繁な数字入力が簡単にできます。カーソルキーとして使用すれば、スプレッドシートまたはそれに類似したアプリケーションに数値データを入力するときの操作性が上がります。



ボタン、スイッチとステータスインジケータ

ボタン、スイッチ





Express Gate ボタン

本機の電源がOFFのときにこのキーを押すと、Express Gate が起動します。詳細はExpress Gate のユーザーマニュアルをご参照ください。

Power4Gear eXtreme ボタン

このボタンで各省電力モードの切り替えを行います。省電力モードはノートパソコンを制御し、パフォーマンス対バッテリ時間を最大化します 。ACアダプタの脱着に応じ、自動的に適切なモード（ACまたはDC）に切り替えます。使用中のモードはスクリーンに表示されます。

インターネット起動ボタン

Windows 動作中に押すとインターネットブラウザを起動することができます。

タッチパッドロックボタン

外付けのマウスを使用しているときに押すと、タッチパッドがロックされて使用できなくなり、タイプミスを防ぎます。ロックを解除するにはもう一度押してください。

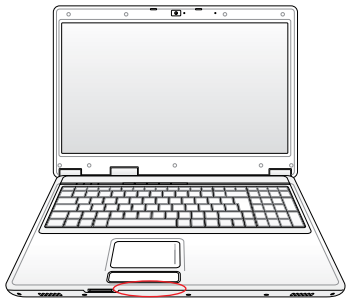
電源ボタン

電源ボタンは、電源のオン/オフの切り替えや、スリープモード/休止モードに切り替える際に使用します。電源ボタンの動作はコントロールパネルの「電源オプション」でカスタマイズすることができます。

ボタン、スイッチとステータスインジケータ（続き）

ステータスインジケータ

フロント



電源インジケータ

電源インジケータ点灯時は本機の電源はオン、点滅時は本機はスリープモードに入っています。このLEDがオフのときは、本機がオフまたは休止モードです。

バッテリ充電インジケータ

バッテリ充電インジケータは、次のようにバッテリの状態を示します。

オン：本機のバッテリが充電中

オフ：本機のバッテリが完全に充電された状態、またはバッテリ残量がゼロ

点滅：オンのときバッテリの残量が10%以下で、アダプタが接続されていない状態

無線インジケータ

無線LANを内蔵するモデルのみです。このインジケータが点灯していると、本機に内蔵の無線LAN機能がアクティブになっていることを示します。（Windows ソフトウェア設定が必要です）

Bluetooth インジケータ（特定モデルのみ）

Bluetooth（BT）機能内蔵モデルのみです。本機の内蔵BT機能が有効になっているときに点灯します。

ボタン、スイッチとステータスインジケータ（続き）

ステータスインジケータ

トップ

ドライブアクティビティインジケータ

本機がハードディスクなどの 1 つまたは複数の記憶装置にアクセスしていることを示します。ランプはアクセス時間に比例して点滅します。

ナンバーロックインジケータ

点灯時は、ナンバーロック [Num Lk]機能が有効になっています。ナンバーロックはテンキーの用途を切り替え、数字を入力しやすくする機能です。

Caps Lockインジケータ

ランプがついているとき、Caps Lock がアクティブになっていることを示します。Caps Lock によって、大文字（例、ABC）を入力できるようになります。Caps Lock ランプがオフになっているとき、入力された文字は小文字（例、a b c）になります。

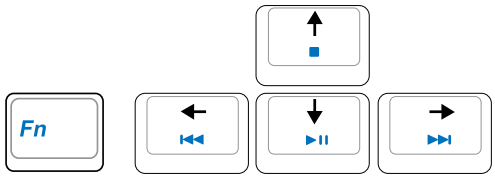
スクロールロックインジケータ

点灯しているときはスクロールロック機能 [Scr Lk] が有効になっています。この機能を有効にすると文字キーはカーソルキーとして動作します。ゲームのプレイ中など、キーボードの大半を使用しない場合に便利な機能です。

マルチメディアコントロールキー（特定モデルのみ）

マルチメディアアプリケーションを操作する際に便利なキーです。Windows Media Player 搭載PCでの各キーの機能は以下のとおりです。なお、他のマルチメディアアプリケーションでの動作はこのページの記載内容とは異なる場合があります。

注：キーの動作はノートパソコンのモデルにより異なる場合があります。



注：操作を行う際は <Fn> キーと矢印キーを組み合わせて使用します。

プレイ/ポーズ

ディスク停止中に押すと、ディスクを再生します。
ディスク再生中に押すと、ディスクを一時停止します。

ストップ

ディスク再生中に押すと、再生を停止します。

前のトラックにスキップ（巻き戻し）

前のトラックにスキップします。

次のトラックにスキップ（早送り）

次のトラックにスキップします。

音量調節

Fn + スピーカーアイコン（F10）： ミュートの切り替えを行います。
Fn + スピーカーダウンアイコン（F11）： 音量を下げます。
Fn + スピーカーアップアイコン（F12）： 音量を上げます。

4. ノートパソコンを使用する

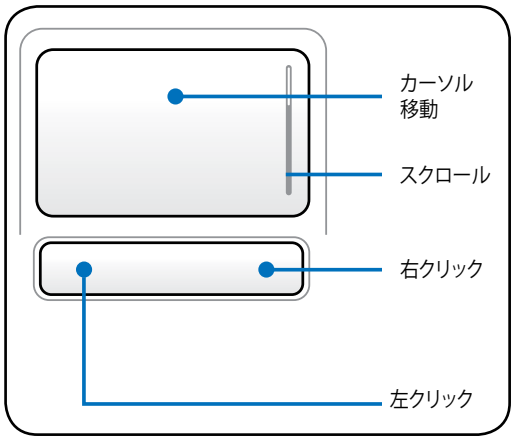
ポインティングデバイス
記憶装置
　拡張カード
　光学ドライブ
　フラッシュメモリカードリーダー
　ハードディスクドライブ
接続
　ネットワーク接続
　無線LAN接続（特定モデルのみ）
　Bluetooth 無線接続（特定モデルのみ）

注意：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

ポインティングデバイス

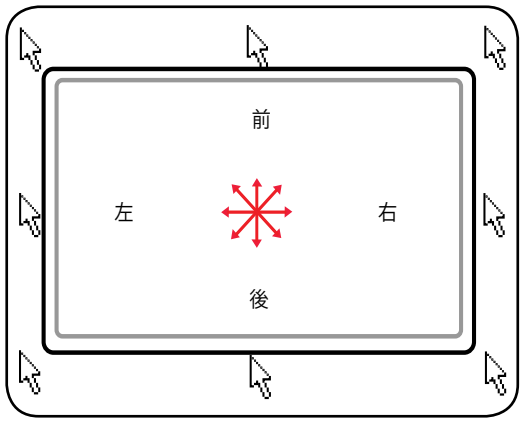
本機に組み込まれたタッチパッドポインティングデバイスはマウスと完全な互換性があります。タッチパッドは感圧式で稼動部分がないため、機械が故障することはありません。ただし、一部のアプリケーションソフトウェアで作動させるためには、デバイスドライバが必要となります。

重要：タッチパッドの操作には、指以外は使用しないでください。タッチパッドの表面を傷つける恐れがあります。



タッチパッドを使用する

タッチパッドの操作は、指先で軽く触れるだけです。タッチパッドは静電気に敏感に反応するため、指以外は使用することはできません。タッチパッドの主な機能は、マウスの代わりに指先を使用して、カーソルを移動したり画面に表示された項目を選択することです。右の図をご参照ください。

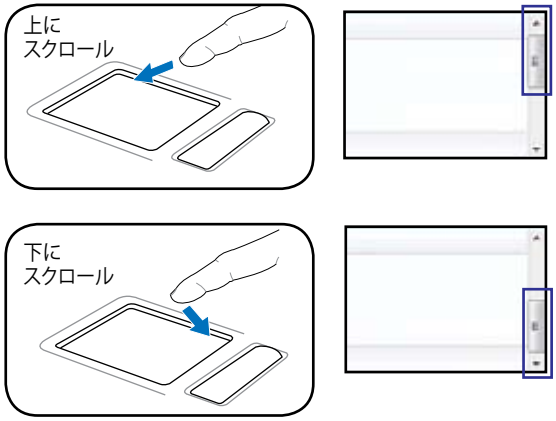


カーソルの移動

タッチパッドの中央に指を置き、指をスライドさせてカーソルを動かします。

スクロール（特定モデルのみ）

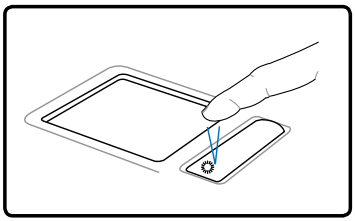
タッチパッドの右側で指をスライドさせ、ウィンドウを上下にスクロールします。



タッチパッドの使い方

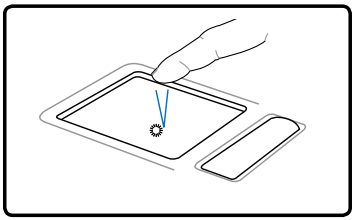
クリック/タップ：カーソルをアイテムの上に置いて、左ボタンを押すか、指先でタッチパッドに軽く触れると、選択したアイテムの色が変わります。次の 2 つの操作の内容は全く同じです。

クリック



左側ボタンを押して離します。

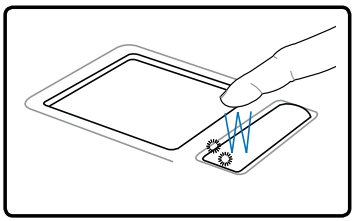
タップ



タッチパッドを軽く素早く打ちます。

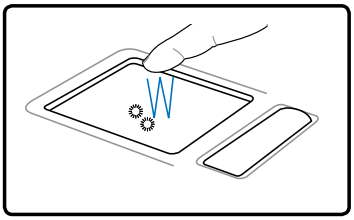
ダブルクリック/ダブルタップ：選択したアイコンから直接プログラムを起動します。カーソルを実行するアイコンの上に移動し、続けて素早く左ボタンを 2 度押すか、またはパッドを 2 度タップすると、選択したプログラムが起動します。クリックまたはタップの間隔が長すぎると、起動できません。また、Windowsのコントロールパネルの「マウス」を使用してダブルクリックの速度を設定することができます。次の 2 つの操作の内容は全く同じです。

ダブル
クリック



左ボタンを2度押して離します。

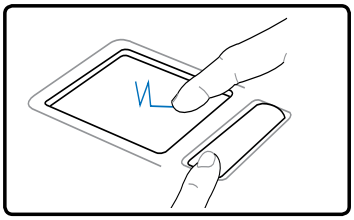
ダブル
タップ



タッチパッドを軽く、素早く2度打ちます。

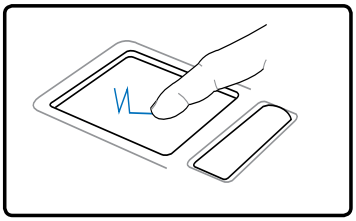
ドラッグ：アイテムを選択し移動します。アイテムの上にカーソルを移動し、左ボタンを押したままカーソルを移動したらボタンを離します。または、アイテムを素早くダブルタップし、指先でアイテムを選択したままドラッグすることもできます。次の 2 つの操作の内容は全く同じです。

ドラッグ
クリック



左ボタンを抑えたまま、タッチパッド上で指をスライドさせます。

ドラッグ
タップ



タッチパッド上で素早く 2 回タップし、2 回目のタップに続けてタッチパッド上で指をスライドさせます。

タッチパッドのお手入れ

タッチパッドは感圧式です。適切に取り扱わないと故障する可能性が非常に高くなります。次の注意事項を必ず守ってお使いください。

・タッチパッドに埃、液体、油分を付着させない。
・汚れた指、濡れた指で、タッチパッドに触れない。
・タッチパッドやタッチパッドのボタンに物を置かない。
・爪や硬い物等でタッチパッドを傷つけない。

注：タッチパッドは力ではなく動きに反応します。表面を強くタップする必要はありません。強くタップしてもタッチパッドの感度は増しません。タッチパッドは軽い圧力にもっとも良く反応します。

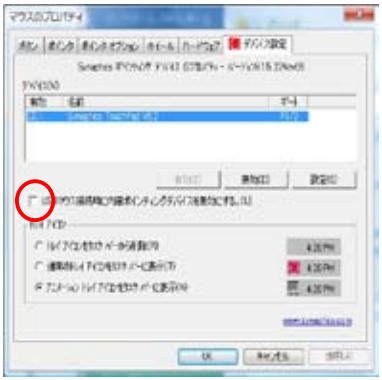
タッチパッド自動オフ

外付けUSBマウスを取り付けたときに、本機のタッチパッドを自動的に無効にすることができます。この機能は通常無効になっており、有効にするには、「**コントロールパネル**」→「**ハードウェアとサウンド**」→「**マウスのプロパティ**」→「**デバイス設定**」（または**USBマウス接続**）の順にクリックし、この機能をオンにしてください。

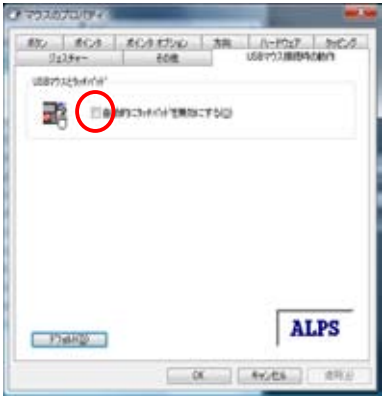
コントロールパネルホーム

コントロールパネル - クラシック表示

Synaptics タッチパッド搭載モデル



ALPSタッチパッド搭載モデル



記憶装置

文書や画像、その他のファイルをさまざまなデータ記憶装置に書き込み/読み込みできます。本機では以下の記憶装置を利用することが可能です。

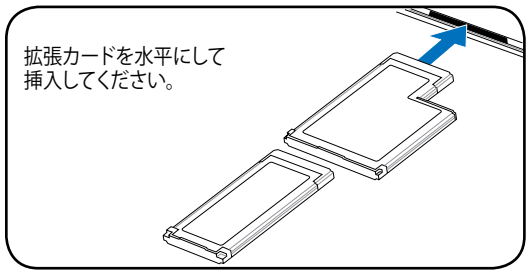
- 拡張カード（26ピンのExpress Card）
- 光学ドライブ（外付けドライブ）
- フラッシュメモリカード（対応カードはページ47を参照）
- ハードディスクドライブ
- USB2.0とUSB1.1に接続互換のある記憶媒体

拡張カード

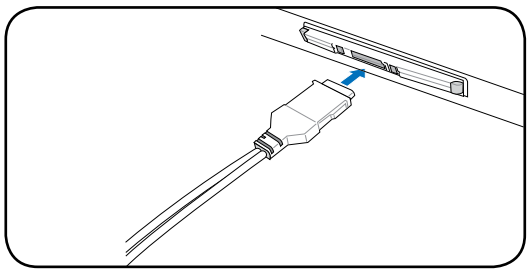
26ピンのExpress Cardスロットは、ExpressCard/34mm拡張カード1枚、またはExpressCard/54mm拡張カード1枚に対応しています。この新型インターフェースは、USB2.0とPCI Expressに対応のシリアルバスを採用することで、従来のパラレルバスよりもより高速になりました。（旧型のPCMCIAカードには対応していません）

拡張カードを挿入する

1. 拡張カードソケットプロテクタがある場合は、下の「拡張カードを取り外す」の指示に従ってこれを取り外します。
2. コネクタ側からラベル面を上にして差し込みます。標準的な拡張カードは、完全に差し込むとスロットにちょうど収まります。

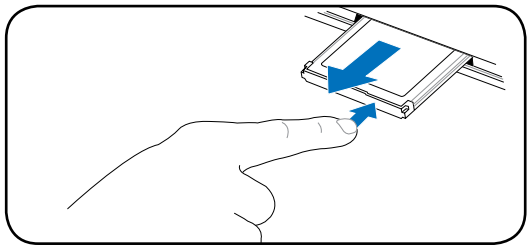


3. 拡張カードに必要なケーブルやアダプターを接続します。コネクタは一方向にしか挿入できません。コネクタの面にあるステッカー、アイコン、マーキングのある方が表です。



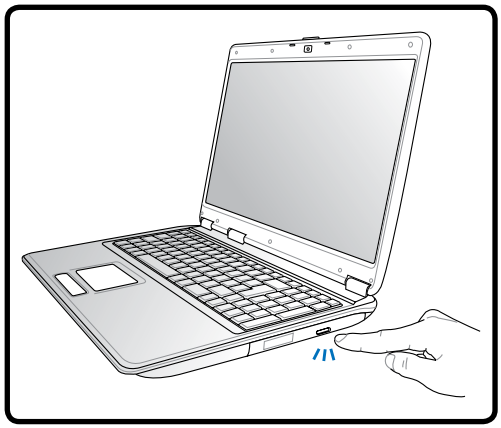
拡張カードを取り外す

ExpressCardスロットにはイジェクトボタンがありません。拡張カードを押し込むと拡張カードが出てきますので、ソケットから引き出します。

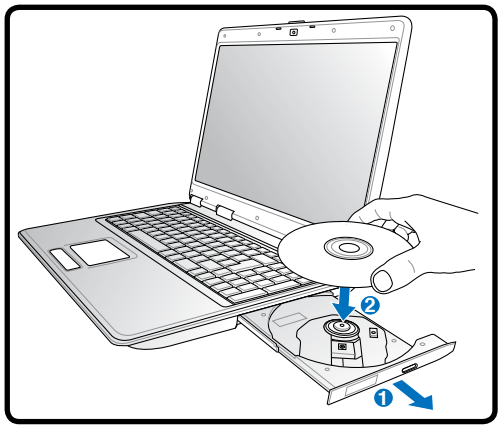


光学ドライブ

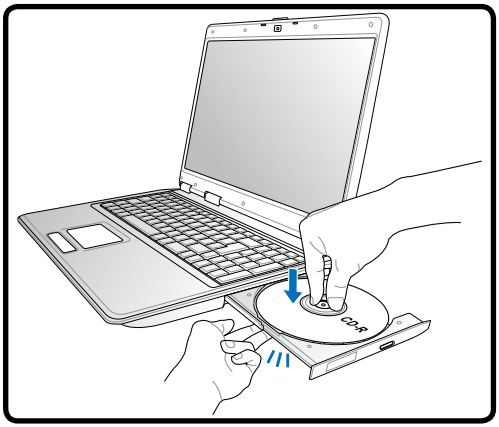
光学ディスクを入れる



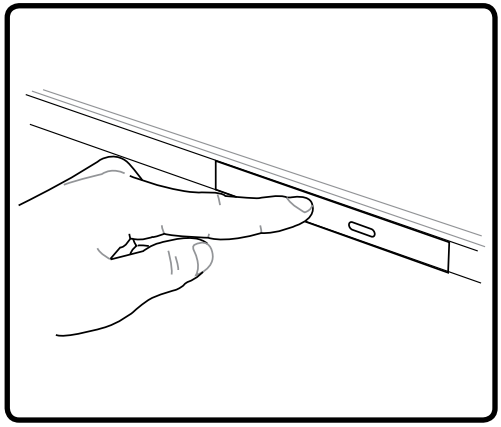
1. ノートパソコンの電源をオンにしたまま、ドライブのイジェクトボタンを押すとトレイが半分ほど出てきます。



2. ドライブのフロントパネルをそっと引きながら、トレイをスライドさせて完全に出します。光学ドライブのレンズや他の機械部分には触れないように注意してください。ドライブのトレイの下に障害物がないことを確認してください。



3. ディスクの端を持ちディスクの印刷面を上に向けます。ディスク中央部の両端がスピンドル（軸）にパチンと留まるまで押します。正しく取付けるとスピンドルはディスクより上に出ます。

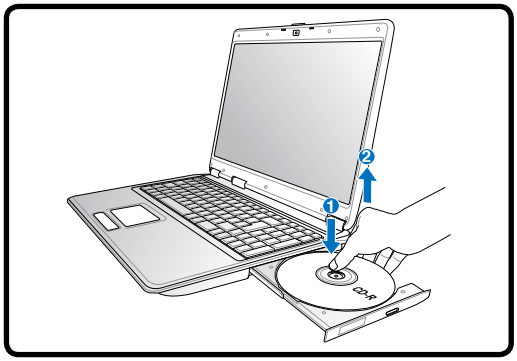


4. ドライブのトレイをゆっくり元に戻すと、ドライブはディスクのコンテンツのテーブル(TOC)の読み込みを開始します。ドライブが停止したら、ディスクを使用することができます。

注：データを読み込んでいる間、ディスクが高速で回転する音が聞こえますが、これは正常の動作です。

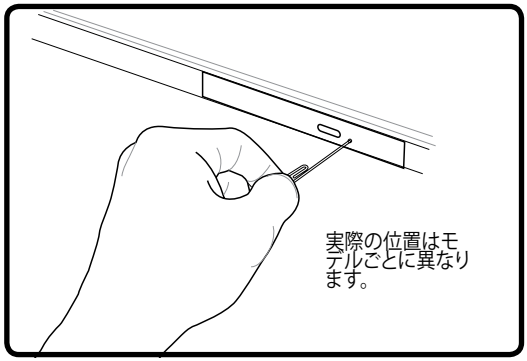
光学ドライブ（続き）

光学ディスクを取り外す



トレイを外に出し、スピンドルからディスクの端を持ちそっと上に持ち上げます。

緊急イジェクト



緊急イジェクトは光学ドライブにある穴の中にあり、電子イジェクトが利用できない際に使用します。電子イジェクトが使用できない場合のみ使用してください。**注：アクティビティインジケータを傷つけないよう注意してください。**

光学ドライブを使用する

光学ディスクと光学ドライブには精密部品が組み込まれているため、注意して取り扱う必要があります。CD製造元の安全に関する指示に従ってください。デスクトップの光学ドライブとは異なり、ノートパソコンはスピンドルを使用して、角度に関わらずCDを所定の位置に固定しています。CDを挿入するときはCDを中央スピンドルにしっかり固定してください。固定しないとドライブトレイでCDが傷付くことがあります。

警告：CDが中央スピンドルでしっかりロックされていないと、トレイを閉じるときにCDが傷つくことがあります。閉じる際はCDを傷つけないよう、トレイはゆっくり閉じてください。

ドライブ内にディスクがなくても、CDドライブ名は表示されます。CDを正しく挿入するとハードディスクドライブと同じようにデータにアクセスすることができます。CDはハードディスクドライブと異なり書き込みや変更が一切できません。CD-RWドライブやDVD+CD-RWドライブはCD-RWディスクへの書き込みや削除、編集が可能です。

CD面の印刷により、光学ドライブが振動することがあります。振動を抑えるためには、平らな面でノートパソコンを使用しCDにラベルを貼らないようにしてください。

オーディオCDを聞く

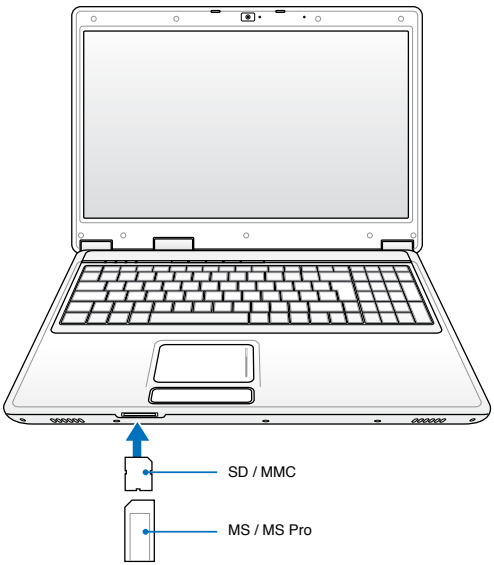
光学ドライブはオーディオCDを再生することができますが、DVDオーディオを再生するためにはDVD-ROMドライブを使用し、DVD再生ソフトがインストールされている必要があります。搭載OSにより、DVD再生ソフトがインストールされていない状態でも再生可能な場合があります。オーディオCDを挿入すると、Windows がオーディオプレーヤー（WindowsMediaPlayer）を自動的に開き、再生を開始します。DVDオーディオディスクを接続し、DVD再生ソフトをインストールしている場合によっては、DVDオーディオを開くためにDVDプレーヤーを開く必要があります。また、ホットキーもしくはタスクバーのWindows スピーカーアイコンを使用して、音量を調節することができます。

フラッシュメモリカードリーダー

デジタルカメラやMP3プレイヤー、携帯電話、PDAなどのメモリカードを使用するには通常、メモリカードリーダーの購入が必要ですが、本ノートパソコンにはメモリカードリーダーが1基内蔵されており、以下のフラッシュメモリカードを読み取ることができます。内蔵のメモリカードリーダーは便利であるだけでなく、高いバンド幅のPCI バスを採用しているため、他の形式のメモリカードリーダーより高速で動作します。

重要!フラッシュメモリカードの互換性は、ノートパソコンのモデルとフラッシュメモリカードの仕様に左右されます。また、フラッシュメモリカードの仕様は常に変更されており、互換性も予告なく変更されることがあります。

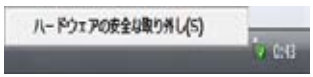
サポートするフラッシュメモリカード(例)



※ **上記のモジュールに関しては、変換アダプタを用いることで、ご利用になることができます。**

重要:データが消失する恐れがありますので、データの読み込みやコピー、フォーマット、削除などの処理中および処理直後は、カードを取り外さないでください。

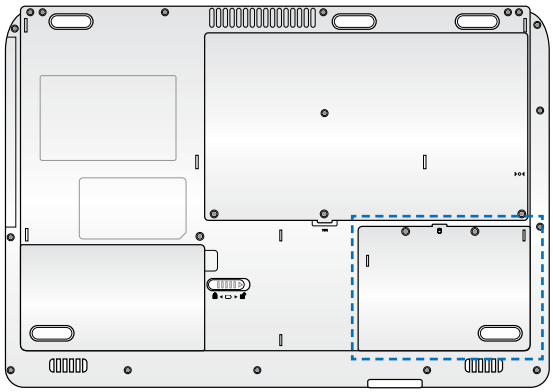
警告:データ消失を避けるために、フラッシュメモリカードを取り外す際は、タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」を利用してください。



ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブはフロッピーディスクドライブや光学ドライブより大容量かつ高速です。本ノートパソコンには幅2.5インチ（6.35cm）、および高さ0.37インチ（0.95cm）のHDDが搭載されています。このハードドライブはS.M.A.R.T.（Self Monitoring and Reporting Technology）をサポートし、ディスクエラーを未然に検出し、ハードディスクドライブの物理的不具合を防ぎます。

重要：ノートパソコンを移動する際に不適切に取り扱うと、ハードディスクドライブが損傷することがあります。ノートパソコンは注意して取り扱い、静電気や強い振動や衝撃を受ける場所には近づけないでください。ハードディスクドライブはノートパソコンで最もデリケートなコンポーネントで、ノートパソコンが衝撃を受けた場合などに最初に損傷するコンポーネントです。



ハードディスクドライブは収納部に固定されています。保証対象外となりますので部品交換などは行わないようにしてください。

接続

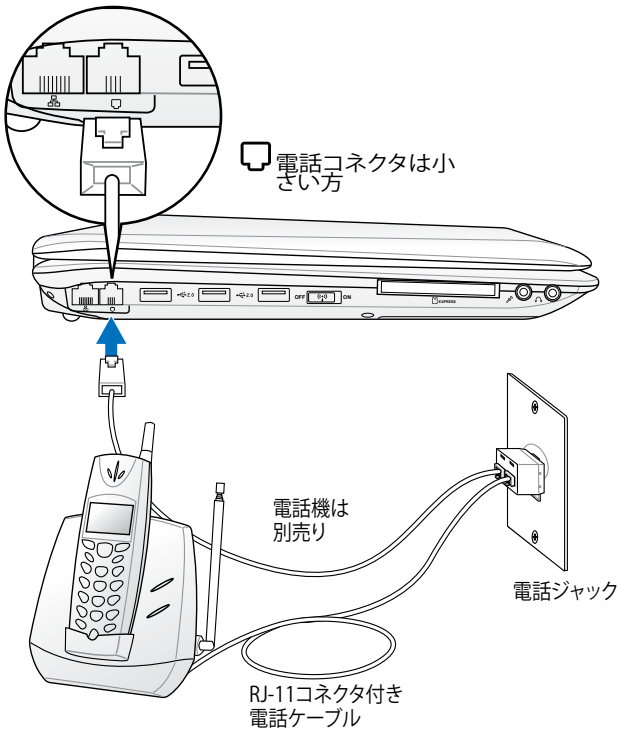
注:内蔵モデムとネットワーク機能を購入後に追加することはできません。モデムとネットワーク機能を追加する際はPCカード(PCMCIA)を使用します。

モデム接続（特定モデルのみ）

ノートパソコンの内部モデムに接続する電話線は２線または４線式（モデムは２線式｛電話線#1｝のみを使用）で、両端にRJ-11コネクタが付いています。一方をモデムポートに、もう一方をアナログ電話ジャックに接続します。モデムの使用にはドライバのセットアップが必要です。

注：オンラインサービスに接続しているときは、ノートパソコンをサスペンド状態（もしくは、スリープ）にしないでください。接続が切断されます。

内蔵モデムを使用して電話線に接続した例



重要：安全上、電話ケーブルは、26AWG以上の規格のものをご使用ください。（用語集を参照）

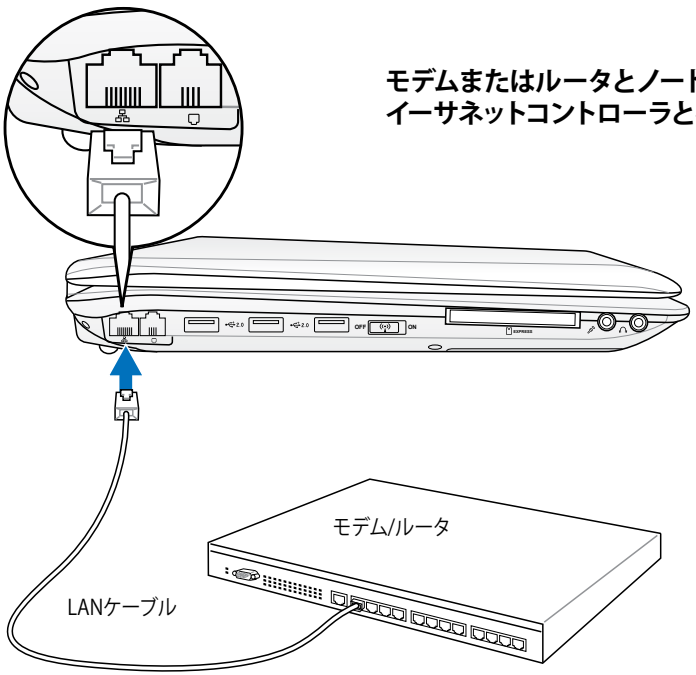
ネットワーク接続

RJ-45のコネクタが両端に付いているケーブルを使用します。ケーブルの一方をノートパソコン上のネットワークポートに、もう一方をモデム、ルータの末端に繋ぎます。100BASE-TX/1000 BASE-Tの場合は、カテゴリ5以上（カテゴリ3ではない）のネットワークケーブルとツイストペアケーブルが必要です。100/1000Mbps のインターフェイスで稼動する予定の場合は、100BASE-TXハブ/1000 BASE-Tハブ（BASE-T4ハブではない）に接続する必要があります。10BASE-Tの場合はカテゴリ3、4、または5のツイストペアケーブルを使用します。10/100 Mbps Full-Duplex（全二重通信）はこのノートパソコンでサポートされていますが、「Duplex（二重）」を有効にしてスイッチングハブに接続する必要があります。ソフトウェアの初期設定には最速の設定が使用されています。

1000BASE-T（またはGigabit）は特定モデルのみでのサポートです。

ツイスト線ケーブル

イーサネットカードをホスト（一般には、ハブまたはスイッチ）に接続するために使用されるケーブルは、TPE（ツイストペアイーサネット）ケーブルと呼ばれています。エンドコネクタはRJ-45コネクタと呼ばれ、RJ-11電話コネクタと互換性がありません。ハブを介さずに 2 台のコンピュータを接続する場合、クロスケーブルが必要です(ファストイーサネットモデル)。ギガビットモデルは自動クロスオーバー機能に対応していますのでクロスケーブルはオプションです。



モデムまたはルータとノートパソコンの内蔵イーサネットコントローラとを接続した例

無線LAN接続（特定モデルのみ）

オプションの内蔵無線LANは、コンパクト設計の無線イーサネットアダプタです。無線LAN（WLAN）対応のIEEE 802.11b/g（Wi-Fi適合）、IEEE 802.11n（Draft 2.0）に対応し、周波数2.4GHz/5GHz、DSSS（Direct Sequence Spread Spectrum）とOFDM（Orthogonal Frequency Division Multiplexing）技術で高速データ通信を可能にしました。また、初期のIEEE802.11規格にも下位互換性があります。

このオプションの内蔵無線LANはクライアントアダプタで、インフラストラクチャモードとアドホックモード両方に対応。無線ネットワークの設定に幅があります。アクセスポイントとクライアントの距離は最高40メートルです。

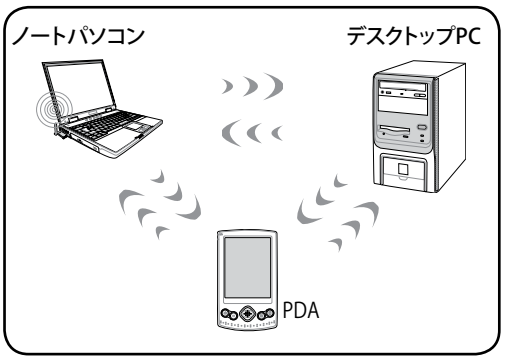
セキュリティをより効果的にするため、オプション内蔵無線LANには64bit/128bit WEP（Wired Equivalent Privacy）暗号化方式とWPA（Wi-Fi Protected Access）機能が採用されています。

セキュリティの観点から、不明なネットワークには接続しないでください。暗号化設定がされていないネットワークでは、ユーザーの情報が第三者に流失する恐れがあります。

アドホックモード

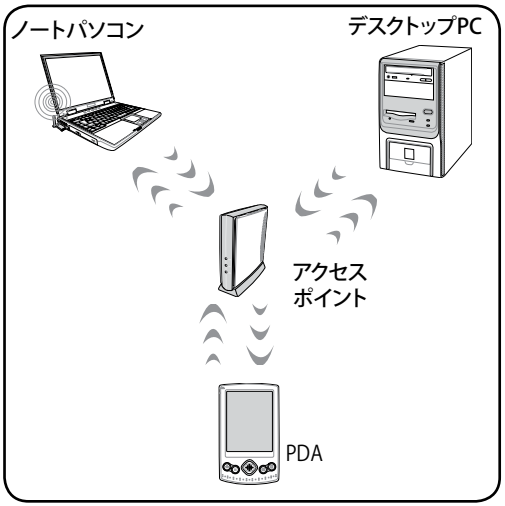
ノートパソコンを他の無線デバイスに接続することができます。アクセスポイントは不要です。

これらは無線ネットワークの一例です。



インフラストラクチャモード

ノートパソコンと他の無線デバイスをアクセスポイント（別売り）で構築された無線ネットワークに加えることができます。無線クライアント用にセントラルリンクを提供し、無線ネットワーク同士または有線ネットワーク間のコミュニケーションが可能です。



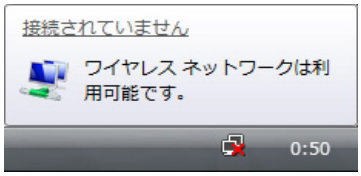
Windows 無線ネットワーク接続

ネットワークに接続する

1. 必要に応じ、無線スイッチ/ボタンをオンにします（モデルにより異なる）。詳細はセクション３を参照。

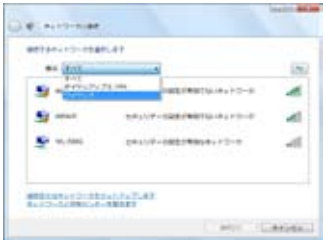
2. 「Wireless LAN ON」または「WLAN & Bluetooth ON」と表示されるまで[FN + F2]を繰り返し押します。

2b. またはタスクバーの「Wireless Console」アイコンをダブルクリックし「**Wireless LAN+Bluetooth**」または「**Bluetooth**」を選択します。

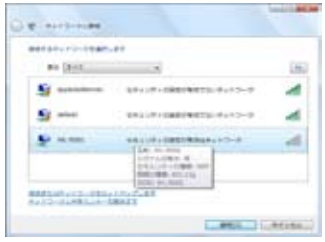


3. 接続されていないことを示すアイコンが表示されます。

4. ネットワークアイコンを右クリックし、「**ネットワークに接続**」を選択します。



5. 複数のネットワークがある場合は「**すべて**」を選択します。



6. 接続するワイヤレスネットワークを選択します。

7. 無線LAN親機にてパスワードを設定している場合は、パスワードの入力が必要です。

8. 接続が確立すると、「**接続済み**」と表示されます。

詳しくは各社プロバイダ様へお問い合わせください。

Bluetooth無線接続（特定モデルのみ）

本機はBluetooth 対応機種ですので、ケーブル接続を使用せずに他の Bluetooth対応デバイス（ノートパソコン、デスクトップPC、携帯電話、PDA等）に接続することができます。

注：お使いのノートパソコンに内蔵Bluetooth が搭載されていない場合は、USBまたはPCカードBluetoothモジュールの接続が必要です。

Bluetooth 対応携帯電話
携帯電話とBluetooth接続が可能です。機種により、電話帳や画像、音声ファイル等の転送が可能です。

Bluetooth 対応コンピュータ/PDA
他のPCやPDAに無線接続し、データや周辺機器、インターネット接続の共有が可能です。また、Bluetooth 対応の無線キーボードやマウスも利用することができます。

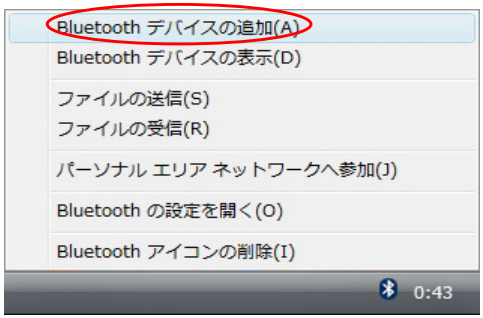
ユーティリティを起動する

この方法はほとんどのBluetooth デバイスでご利用いただけます。詳細は巻末の「付録」をご参照ください。

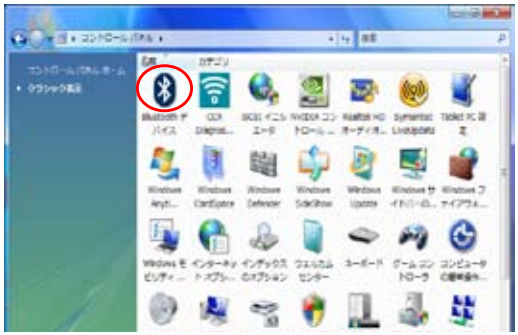
1. 必要に応じ、無線機能をONにします（モデルにより異なる）。詳細はセクション３を参照。

2. 「BluetoothON」または「WLAN&BluetoothON」が表示されるまで [FN F2] を押します。

2b. またはタスクバーの「Wireless Console」アイコンをダブルクリックし、「**Wireless LAN +Bluetooth**」または「**Bluetooth**」を選択します。



3. タスクバーの「**Bluetoothデバイスの追加**」を選択します。



3b. または、コントロールパネルから「**Bluetooth デバイス**」を起動します（図はクラシック表示）。

付録

オプション（アクセサリ）
オプション（接続形態）
Bluetooth のセットアップ
OSとソフトウェア
　システムBIOS 設定
　よく聞かれる問題と解決方法
　Windows® Vista™ リカバリーソフトウェア
用語集
Declarations and Safety Statements
オーナー情報

注：本マニュアルに記載の写真やアイコンは参照用で、実際と異なる場合もあります。ご了承ください。

オプション（アクセサリ）

これらのアイテムは、必要に応じて、サードパーティからお求めになることができます。

USBハブ（オプション）

オプションのUSB ハブを接続し、USBポートを追加すれば、1本のケーブルを通して多くのUSB周辺装置への接続/取り外しが簡単に行えるようになります。

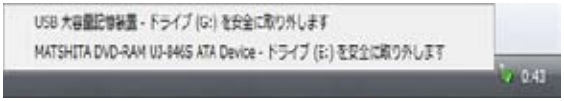
USBフラッシュメモリディスク

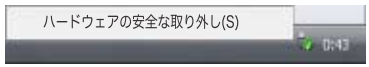
USB フラッシュメモリディスクは、1.44MB フロッピーディスクに代わり、より高い転送速度と耐久性を実現しながら、数百メガバイトのデータを記憶することができます。現在のOSで使用するとき、ドライバは必要ありません。

USBフロッピーディスクドライブ

オプションのUSBインターフェースFDDを装備すると、標準の1.44MB (または720KB) 3.5インチフロッピーディスクが使用可能です。

警告：システム障害を避けるために、USB FDDを取り外す際は、タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」を利用してください。ノートパソコンを移動させる場合はフロッピーディスクを取り出してください。衝撃で損傷することがあります。

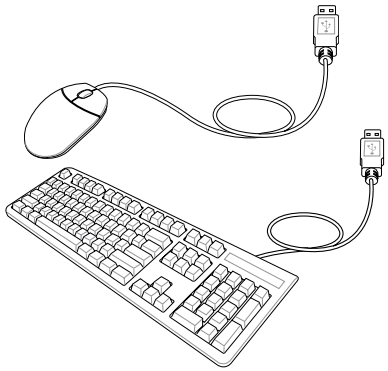




オプション（接続形態）

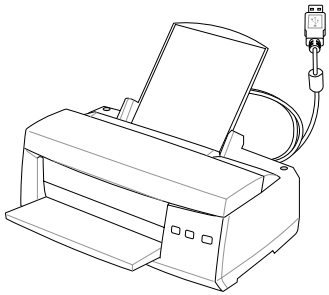
USBキーボードとマウス

外付け USB キーボードで、快適にデータ入力。外付け USB マウスで快適に Windows ナビゲーション。外付けの USB キーボードとマウスは、ノートパソコン内蔵のキーボードとタッチパッドを動作させたまま同時にお使いいただけます。



プリンタ接続

1台または複数のUSBプリンタを任意のUSBポートまたは USB ハブに同時に接続することができます。



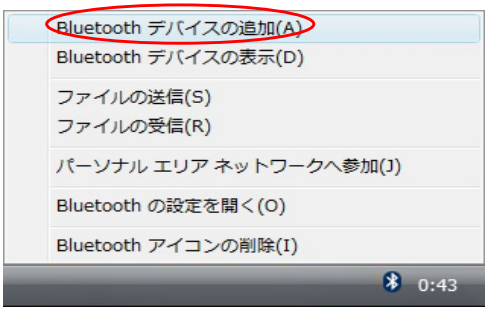
Bluetooth のセットアップ（オプション）

このセットアップ方法はほとんどのBluetooth デバイスでご利用いただけます。

1. 必要に応じ、無線スイッチ/ボタンをオンにします（モデルにより異なる）。詳細はセクション 3 を参照。

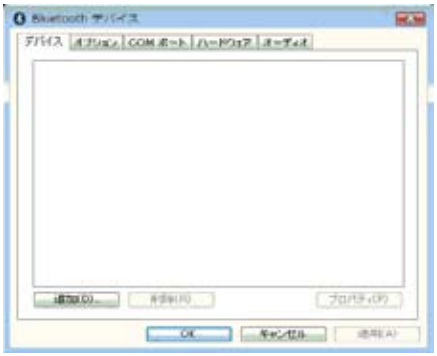
2. 「**Bluetooth ON**」または「**WLAN & Bluetooth ON**」が表示されるまで [FN + F2] を押します。

2b. またはタスクバーの「Wireless Console」アイコンをダブルクリックし、「**Wireless LAN +Bluetooth**」または「**Bluetooth**」を選択します。

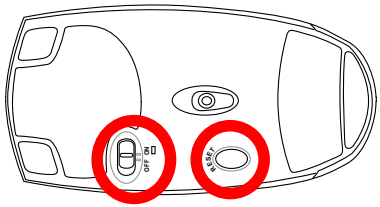


3. タスクバーに表示されるBluetoothアイコンを右クリックし、「**Bluetooth デバイスの追加**」を選択します。

3b. または、コントロールパネルから「**Bluetooth デバイス**」を起動します（図はクラシック表示）。



3c. コントロールパネルからBluetooth デバイスを選択した場合、上のような画面が表示されます。
「**追加**」を選択し、セットアップを開始します。

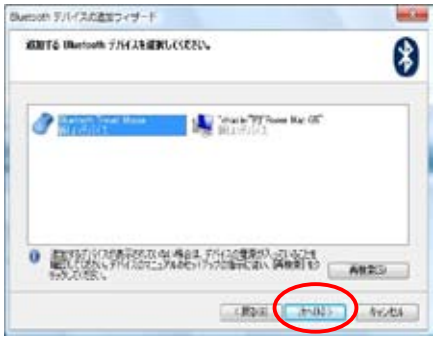


4. Bluetooth マウスの準備

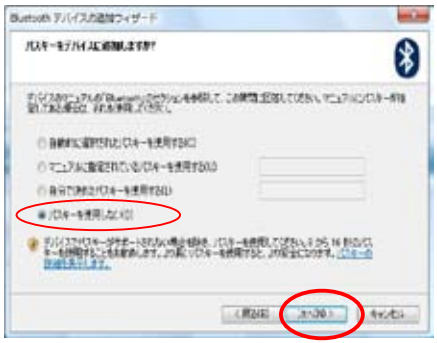
- 単三電池を2本入れます。
- マウス底面にある電源スイッチで、電源をオンにします。オンになるとセンサーが赤く点灯します。
- マウス底面にある「RESET」ボタンを押します。

Bluetooth のセットアップ（オプション）

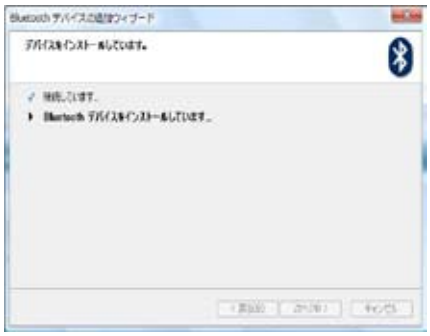
5. Bluetooth マウスが準備できたら、「**次へ**」をクリックします。



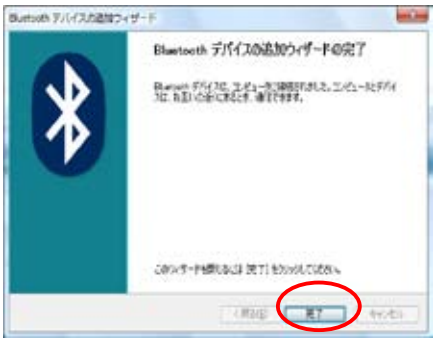
6. デバイスのリストが表示されたら、 Bluetooth マウスを選択し、「**次へ**」をクリックします。



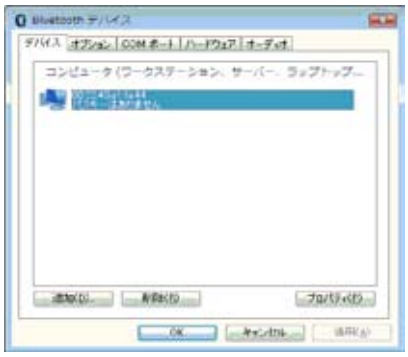
7. 「**パスキーを使用しない**」を選択し「**次へ**」をクリックします。



8. Bluetooth マウスが追加されるまで数秒かかります。



9. 追加されたら「**完了**」をクリックします。



10. 画面にマウスのアイコンが表示されます。この画面でBluetooth デバイスの追加と削除が可能です。

注：電池交換すると、リセット、セットアップが再度必要になることがあります。

OSとソフトウェア

本ノートパソコンには、Microsoft Windows OSが予めインストールされています。ハードウェアとソフトウェアのサポートは、インストールしたOSによって異なります。なお、サポート外のOSの安定性と互換性は保証できません。

サポートするソフトウェア

本ノートパソコンにはBIOS、ドライバ、アプリケーションをコンテンツに含むサポートディスクが付属しています。ノートパソコンのハードウェアの特性を有効にし、機能を拡張し、管理を容易にします。また、OSで提供していない機能を追加することもできます。サポートディスク内のドライバ等の更新や交換が必要になった場合は、Webサイトから個別のソフトウェアドライバやユーティリティをダウンロードしてください。

サポートディスクには、予めインストールされたものも含め、OS用のドライバ、ユーティリティ、ソフトウェアが全て含まれています。ただし、OS自体はサポートディスクには含まれていません。出荷時にインストールされていないソフトウェアをインストールする際等にサポートディスクをご使用ください。

リカバリーディスクはオプションで、出荷時にハードディスクドライブにインストールされているOSデータが含まれています。リカバリーディスクはノートパソコンの包括的な回復ソリューションを提供します。ハードディスクドライブが良好な作動状態であれば、ノートパソコンのOSを出荷時の状態に素早く復元します。なお、この作業が必要になったときは、販売店にお問い合わせください。

注：デバイスドライバやユーティリティをインストールしないと動作しないコンポーネントや機能もあります。

システム BIOS 設定

Boot Device（起動デバイス）

1.「**Boot**」画面で「**Boot Device Priority**」(起動デバイスの順位)を選択します。

2. 各項目を選択し、[**Enter**] を押してデバイスの起動順位をそれぞれ設定します。

Security Setting

1.「**Security**」画面で「**Change Supervisor Password**」または「**Change User Password**」を選択します。

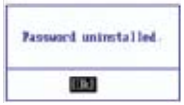
2. パスワードを入力し、[**Enter**]を押します。

3. パスワードを再入力し、[**Enter**] を押します。

4. パスワードが設定されました。

パスワードを削除する

1. パスワードの欄を空欄にし、[**Enter**]を押します。



2. パスワードが削除されました。

システム BIOS 設定（続き）

Password Check（パスワードチェック）

起動する度にパスワードを要求する（Always）か、BIOSに入るときだけ要求する（Setup）かを選択します。

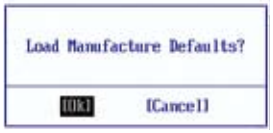
User Access Level（アクセスレベル）

BIOS セットアップ でのパスワードのアクセスレベルを選択します。

Save Changes（変更を保存）

設定の変更を保存するには、BIOS から退出する際に変更を保存します。

初期設定値に戻すには、「**Load Manufacture Defaults**」を選択します。選択後は、BIOS から退出する際に初期設定値を保存してください。



よく聞かれる問題と解決方法

ハードウェアの問題 - 光学ディスク

光学ディスクドライブがディスクを読み/書き込みできない

1. BIOS を最新バージョンに更新してください。
2. BIOS を更新しても問題が解決しない場合は、ディスクを別のものに取り替えてください。
3. 問題が解決しない場合は、サービスセンターまでご連絡ください。

原因不明 - システムが不安定になる

休止状態から復帰できない

1. 購入後アップグレードしたパーツ（RAM、HDD、WLAN、BT）があれば購入時の状態に戻してください。
2. パーツのアップグレードをしていない場合は、MS System Restore でシステムを以前の状態に復元します。
3. 問題が解決しない場合は、リカバリーパーティション/DVD でシステムを復元してください。
   （注：リカバリーする前に、全てのデータを他のロケーションにバックアップしてください）
4. 問題が解決しない場合は、サービスセンターまでご連絡ください。

ハードウェアの問題 - キーボード/ホットキー

ホットキー（FN）が利用できない

A. 「ATK0100」ドライバをドライバディスクまたはASUSのサイトから再インストールしてください。

ハードウェアの問題 - 内蔵型カメラ

内蔵型カメラが動作しない

1. デバイスマネージャで問題を検証します。
2. Web カメラのドライバを再インストールしてください。
3. 問題が解決しない場合は、BIOSを最新バージョンに更新します。
4. 問題が解決しない場合はサービスセンターまでご連絡ください。

ハードウェアの問題 - バッテリ

バッテリのメンテナンス

1. 下のWeb サイトでノートパソコンの 1 年保証サービスの登録手続きを行ってください。
   http://member.asus.com/login.aspx?SLanguage=jp-jp
2. ACアダプタ併用時でも、ノートパソコン使用中にバッテリパックを取り外さないでください。電源が落ちることによりダメージを受けるおそれがあります。ASUSのバッテリパックには保護回路が組み込まれており、過充電を防止します。このため、バッテリパックはノートパソコンに取り付けたままでも、ダメージを受けません。
3. バッテリパックを長期間使用しない場合は、温度が10℃～30℃で乾燥した環境に保管してください。3ヶ月に 1 度充電することをお勧めします。

よく聞かれる問題と解決方法（続き）

ハードウェアの問題 - 電源オン/オフ時のエラー

電源がオンにできない

チェック項目：

1. バッテリでのみ電源オン可能
   「はい」→チェック項目「２」へ、「いいえ」→チェック項目「４」へ
2. BIOSは表示される（ASUS Logo）
   「はい」→チェック項目「３」へ、「いいえ」→解決方法「A」へ
3. OSはロード可能
   「はい」→解決方法「B」へ、「いいえ」→解決方法「A」へ
4. アダプター電源LEDはオン
   「はい」→チェック項目「５」へ、「いいえ」→解決方法「C」へ
5. アダプターでのみ電源オン可能
   「はい」→チェック項目「６」へ、「いいえ」→解決方法「A」へ
6. BIOSは表示される（ASUS Logo）
   「はい」→チェック項目「７」へ、「いいえ」→解決方法「A」へ
7. OSはロード可能
   「はい」→解決方法「D」へ、「いいえ」→解決方法「A」へ

解決方法：

A. 原因はMB、HDD、またはNB；サービスセンターまでご連絡ください。
B. 原因はOS；リカバリーパーティション/ディスクでシステムを復元してください。
   （注：リカバリーする前に、全てのデータを他のロケーションにバックアップしてください）
C. アダプタが原因；電源コードが正しく接続されているか確認してください。問題が解決しない場合は、サービスセンターにパーツ交換をご依頼ください。
D. バッテリが原因；バッテリの接触部分をチェックしてください。問題が解決しない場合は、サービスセンターに修理をご依頼ください。

機械的な問題 - ファン/サーマル

冷却ファンが常にオンで、温度も下がらない

1. CPU が高温でファンが動作しているとき、メインの排気口からエアフローがあることを確認してください。
2. 同時に複数のアプリケーションを使用している場合は（タスクバー参照）、それらを閉じてシステムの負荷を下げてください。
3. ウイルスによってもこのような症状が起きます。アンチウイルスソフトウェアでウイルスをスキャンしてください。
4. 問題が解決しない場合は、リカバリーパーティション/DVD でシステムを復元してください。
   （注：リカバリーする前に、全てのデータを他のロケーションにバックアップしてください）
   （警告：アンチウイルスソフトウェアとインターネット用ファイアウォールインストールする前に、インターネットに接続しないでください。ウイルス感染の原因となります。）

よく聞かれる問題と解決方法（続き）

サービス - 仕様、機能、価格

ノートパソコンに無線カードが接続されているかを知る方法

A. 「コントロールパネル」→「システム」→「ハードウェアデバイス」→「デバイスマネージャ」を開きます。「ネットワークアダプタ」の項目にWLAN カードの有無が表示されます。

ソフトウェアの問題 - ASUS バンドルのソフトウェア

ノートパソコンの電源を入れると、オープンポリシーファイルのエラーメッセージが表示される

A. 「Power4 Gear」ユーティリティの最新のバージョンを再インストールしてください。ASUSの Web サイトからダウンロードすることができます。

原因不明 - ブルーのスクリーン上に白い文字が表示される

システムを起動すると、ブルーのスクリーン上に白い文字が表示される

1. 購入後メモリを追加した場合は、電源をオフにし、追加したメモリを取り外します。次に、電源をオンにします。画面が正常に表示されれば、追加したメモリの互換性に問題があります。
2. ソフトウェアアプリケーションをアンインストールします。最近インストールしたソフトウェアアプリケーションがある場合、互換性に問題がある場合もあります。Windows セーフモードでアンインストールしてください。
3. ウイルスの可能性があります。ウイルスを駆除してください。
4. Windows 環境でWINFLASHを使用するか、DOS モードで AFLASHを使用してBIOSを最新のバージョンに更新してください。これらのユーティリティとBIOSファイルはASUSのWebサイトからダウンロード可能です。
   （警告：BIOS更新中は電源が落ちることがないよう注意してください）
5. 問題が解決しない場合は、リカバリーしシステムを再インストールしてください。
   （重要：リカバリーの前に、全てのデータを他のロケーションにバックアップしてください）
   （警告：アンチウイルスソフトウェアとインターネット用ファイアウォールインストールする前に、インターネットに接続しないでください。ウイルス感染の原因となります。）
   （注意：ハードウェアデバイスを認識させるため、「Intel INF Update」と「ATKACPI」の各ドライバ をまずインストールしてください）
6. 問題が解決しない場合は、サービスセンターまでご連絡ください。

ソフトウェア の問題 - BIOS

BIOSを更新する

1. ノートパソコンのモデルを正確に記録し、ASUSの Web サイトからお使いのモデル用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. 「WINFLASH」ユーティリティで BIOSを更新します。このユーティリティは ノートパソコンに附属のドライバ & ユーティリティ ディスク に入っています。
3. BIOS ファイルを適当なロケーション（C:\）に解凍します。
4. 「**スタート**」から順にリンクをたどり、「**WINFLASH**」を開きます。
   a.新しい BIOS イメージファイルを選択します。
   b.選択した BIOS 情報を確認します；モデル、バージョン、データ等
   c. 「**Flash**」をクリックし、BIOS 更新を開始します。
   d.更新が完了したら「**Exit**」をクリックします。
   e.システムを再起動します。BIOSファイルが正しく更新されたか確認してください。
   システム起動中にASUSロゴが表示されたら、[F2] キーを押しBIOS Setup 画面に入ります。
   f. BIOS Setup に入ったら、「Exit」画面を開き、「**Load Manufacture Defaults**」を選択します。選択したら「**Save and Exit**」選択し、システムを再び再起動してください。
   g. BIOS 更新はこれで終了です。

BIOSの「Advanced」画面の「Easy Flash」機能でもBIOS更新が可能です。画面に表示される指示に沿ってBIOS更新を行ってください。

BIOSを更新、またはクリアした後は、「Load Manufacture Defaults」（初期設定値のロード）が必要になります。

よく聞かれる問題と解決方法（続き）

Symantec Norton Internet Security （NIS）

1. **NISでローカル IPアドレスから Trojan が検出され警告が表示される**
   この問題はウイルス定義ファイルを最新のものに更新することで解決します。なお、ウイルス定義ファイルは定期的に更新することをお勧めします。

2. **Norton Antivirus をアンインストール後、「Information Wizard」で再インストールできない**
   コンピュータからNISがアンインストールされていることを確認し、システムを再起動したら再度 NIS をインストールします。「Live Update」でウイルス定義ファイルを更新します。

3. **Web ページがブロックされ開けない、またはダウンロードスピードが遅い**

   セキュリティ設定を低く設定してください。 NIS は データのダウンロード中にウイルススキャンを行うため、ダウンロードのスピードが下がります。

4. **MSN/ Yahoo メッセンジャーサービスにログインできない**

   NIS を更新してください。また、Windows システムを「Windows Update」で更新してください。問題が解決しない場合：

   1. システムトレイ上にある NIS アイコンをクリックし、NIS 200x を開きます。
   2. 「Options（オプション）」メニューの「Norton AntiVirus」を開きます。
   3. 「Instant Messenger（インスタントメッセンジャー）」をクリックし、「Which Instant messengers to protect（保護するインスタントメッセンジャー）」から「MSN/Windows Messenger」のチェックを外します。

5. **NIS がダメージを受け、再インストールが必要になった場合**

   NIS は附属のディスクの「**NIS200x**」フォルダー（x はバージョンナンバー）に入っています。

6. **オプション「Start firewall when system is booted（システム起動時にファイアウォールを有効にする）」を選択すると、Windows 起動後ファイアウォールが有効になるまで1分ほどかかり、その間Windows が反応しない**

   NIS ファイアウォールを設定すると、システムの動作速度は遅くなります。解決するにはこのオプションを無効に設定してください。

7. **NIS を使用するとシステムスピードが下がる**

   NIS を使用するとシステムスピードが下がることが知られています（起動速度と動作速度の両方）。NIS の保護機能を全て使用している場合、全てのデータがスキャン/検出されるため、スピードはさらに遅くなります。改善策としては、システム起動時の自動スキャン機能を無効にするなどがあります。ウイルスのスキャンはコンピュータへの負荷が少ないときに手動で行うことをお勧めします。

8. **NISをアンインストールできない**

   「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」で、「Norton Internet Security 200x（Symantec Corporation）」を探します。「変更と削除」をクリックし、以降は指示に従ってアンインストールしてください。

よく聞かれる問題と解決方法（続き）

9. 「Norton Internet Security」または 「Norton Personal Firewall」をインストールする前に必要な、Windows ファイアウォールを無効にする方法

1. 「スタート」→「コントロールパネル」を開きます。
2. 「セキュリティ センター」のアイコンをダブルクリックします。
3. 「Windows ファイアウォール」のアイコンをダブルクリックします。
4. 「無効」を選択し「OK」をクリックします。

10. 「Privacy Control（プライバシー制御）」アイコンに「x」が表示される

「状態と設定」からプライバシー制御機能を無効にしてください。

11.管理者の権限を要求するメッセージが頻繁に表示される

NIS ではアンインストールする場合など多くの機能で、管理者の権限でログインするように要求します。ログオフし、ユーザーアカウントを管理者権限のあるものに切り替えてください。

Windows® Vista™ リカバリーソフトウェア（オプション）

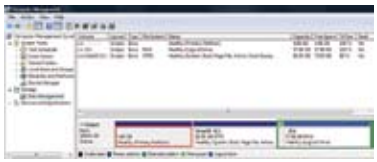
ハードディスクのパーティションを使用する

リカバリーパーティションには、工場出荷時にコンピュータにインストールされたOSイメージ及び各ドライバ、各ユーティリティ 等が保存されています。リカバリーパーティションは優れたリカバリーソリューションで、ハードディスクドライブが正常に動作していれば、ノートパソコンのソフトウェアを本来の動作状態に復元します。この機能を使用する前には必ずデータファイル（Outlook PST ファイルなど）をフロッピーディスクやネットワークドライブなどにコピーし、また各ユーザー設定（ネットワーク設定等）もバックアップしてください。

リカバリーパーティションについて

リカバリーパーティションは ハードディスクドライブ上に確保されたスペースで、 OSや各ドライバ、ユーティリティなどが工場出荷時の状態で保存されています。

重要：「RECOVERY」という名前のパーティションは削除しないでください。リカバリーパーティションは工場で作成され、一度削除するとユーザーは復元することができません。リカバリー中に問題が発生した場合は、ASUS 公認のサービスセンターまでご連絡ください。



リカバリーパーティションを使用する

1. 起動中に [**F9**] キーを押します（リカバリーパーティションが必要）
2. [**Enter**] を押し、「**Windows Setup [EMS Enabled]**」を選択します。
3. 「ASUS Preload Wizard」画面を読み、「**Next**」をクリックします。
4. パーティションオプションを選択し、「**Next**」をクリックします。 オプションは以下の3つです。

   Recover Windows to first partition only.
   1つ目のパーティションのみを削除します。他のパーティションはそのままで、パーティション C 部分のみ削除の後に、再構成を実施します。

   Recover Windows to entire HD.
   ハードディスクドライブからパーティションを全て削除し、新しいシステムパーティション；ドライブ 「C」を作成します。

   Recover Windows to entire HD with 2 partition.
   ハードディスクドライブからパーティションを全て削除し、新しいシステムパーティション「C」（60%）と「D」（40%）を作成します。

5. その後は画面上の指示に沿って、リカバリーを完了してください。

注意：最新のドライバとユーティリティはASUSのサイト（http://www.asus.co.jp/）をご覧ください。

Windows®Vista™リカバリーソフトウェア（続き）

DVDを使用する（特定モデルのみ）

リカバリー DVDには、工場出荷時にコンピュータにインストールされたOSイメージ及び 各ドライバ、各ユーティリティ等が保存されています。リカバリーDVDは優れたリカバリーソリューションで、ハードディスクドライブが正常に動作していれば、ノートパソコンのソフトウェアを本来の動作状態に復元します。この機能を使用する前には必ずデータファイル（Outlook PST ファイルなど）をフロッピーディスクやネットワークドライブなどにコピーし、また各ユーザー設定（ネットワーク設定等）もバックアップしてください。

重要：システムリカバリーを行う前に、追加でハードディスクドライブの増設や、取り替えを行った場合は、そのハードディスクドライブを取り外してください。Microsoft の情報によると以下のような問題が確認されています。
「複数のハードディスクが搭載されたコンピュータにWindows VISTA をセットアップすると、Windows Vista を誤ったドライブにセットしたり、さらには、誤ったドライブパーティションをフォーマットしようとしたりする場合があります。その結果、重要なデータが失われる可能性があります」詳細は http://support.microsoft.com/kb/937251/ でご確認ください。

Using the Recovery DVD:
リカバリー DVDを使用する

1. リカバリーDVDを光学ドライブに入れます（ノートパソコンは電源オンの状態）。
2. ノートパソコンを再起動します。起動中に<Esc> を押し、カーソルで光学ドライブを選択（通常「CD/DVD」と表示）し、<Enter> を押してリカバリーDVDから起動します。
3. パーティションオプションを選択し、「Next」をクリックします。オプションは以下の３つです。

   Recover Windows to first partition only.
   1つ目のパーティションのみを削除します。他のパーティションはそのままで、パーティション C 部分のみ削除の後に、再構成を実施します。

   Recover Windows to entire HD.
   ハードディスクドライブからパーティションを全て削除し、新しいシステムパーティション；ドライブ「C」を作成します。

   Recover Windows to entire HD with 2 partition.
   ハードディスクドライブからパーティションを全て削除し、新しいシステムパーティション「C」（60%）と「D」（40%）を作成します。

4. その後は画面上の指示に沿って、リカバリーを完了してください。

警告：指示があった場合以外は、リカバリー中にリカバリーDVDを絶対に取り出さないでください。コンピュータが使用できなくなります。

注意：最新のドライバとユーティリティはASUSのサイト（http://www.asus.co.jp/）をご覧ください。

用語集

ACPI (Advanced Configuration and Power Management Interface)

コンピュータシステムの統合的電源管理方式の規格。

APM (Advanced Power Management)

コンピュータシステムの節電方式の規格。

AWG (American Wire Gauge)

注:この表は一般的な参照用です。この表は最新ではなく、また完全でない可能性がありますので「American Wire Gauge」規格の原本として用いないでください。

Gauge AWG	Diam (mm)	Area (mm2)	R (ohm/km)	I@3A/mm2 (mA)
33	0.18	0.026	676	75
	0.19	0.028	605	85
32	0.20	0.031	547	93
30	0.25	0.049	351	147
29	0.30	0.071	243	212
27	0.35	0.096	178	288
26	0.40	0.13	137	378
25	0.45	0.16	108	477

Gauge AWG	Diam (mm)	Area (mm2)	R (ohm/km)	I@3A/mm2 (mA)
24	0.50	0.20	87.5	588
	0.55	0.24	72.3	715
	0.60	0.28	60.7	850
22	0.65	0.33	51.7	1.0 A
	0.70	0.39	44.6	1.16 A
	0.75	0.44	38.9	1.32 A
20	0.80	0.50	34.1	1.51 A
	0.85	0.57	30.2	1.70 A

BIOS (Basic Input/Output System)

バイオス:基本入出力システム。メモリ・ディスク・ビデオといったPCを構成する各種部品の制御を実行する。BIOSは基本的にコンピュータ内に格納され、コンピュータのROM上に展開して用いられる。BIOSの設定値はセットアッププログラムにより変更可能で、EEPROM書き込みツールでBIOSそのものをアップデート可能である。

Bit (Binary Digit)

ビット:コンピュータ上で使われるデータ量を表す最少単位。0または1の値を持つ。

Boot

ブート:メインメモリにOSをロードすることにより、コンピュータを起動することを言う。「起動する」「立ち上げる」とも言う。マニュアルに「ブートする」とあれば、それはコンピュータの電源をオンにすること。「リブート」は再起動のこと。

Byte (Binary Term)

バイト:8bit で1Byte である。「B」とも書く。

Clock Throttling

チップセットが持つ、CPUのクロックを制御する機能。節電・温度管理・CPU速度の制御を行う。

用語集（続き）

CPU (Central Processing Unit)
中央演算処理装置：「プロセッサ」とも表記される。コンピュータの頭脳にあたる。処理に割り込みをかけ、命令を実行し、データをメモリに保存する。

Device Driver
デバイスドライバ：単にドライバともいう。ビデオ、サウンド、プリンタ、モデムといった機器をOSで制御できるようにする、それ専用の命令のセット。デバイスは装置の意味。

DVD
DVDはCD同様、デジタルデータの記録メディアである光学ディスクだが、記録容量はCDよりも圧倒的に大きく、CDでは難しい長時間映像の保存ができる。DVDディスクは、ハイカラー、フルモーションビデオ、優れたグラフィックス、鮮明な画像等が実現されている。また、Dolby® Digitalサラウンドにも対応であるため、劇場空間を実現することも可能である。ホームエンタテインメント、コンピュータ、ビジネス情報を一つのデジタルフォーマットで記録できるため、現在では、オーディオCD、ビデオテープ、レーザーディスク、CD-ROM、ビデオゲームカートリッジに変わるメディアとして利用されている。

ExpressCard
ExpressCard スロットは 26 ピンで ExpressCard/34mm（1 枚）の拡張カードをサポート。このインターフェースは、USB 2.0 と PCI Express をサポートするシリアルバスの採用で、PCカードスロットで使われていたパラレルバスよりも高速。（PCMCIA カードとの互換性はない）

Hardware
ハードウェア：コンピュータシステムの物理的な構成機器・部品のこと。プリンタやモデムなどの周辺機器も含む。

IDE (Integrated Drive Electronics)
ハードディスク等のIDEデバイスは、その装置自身に制御回路が搭載され、SCSIのような個別のアダプタカードを必要としない。

IEEE1394 (1394)
iLINK (Sony) または FireWire (Apple)とも呼ばれる。IEEE1394は、SCSIと同様の高速シリアルバスであるが、USBの様にホットプラグに対応しており、取り扱いが簡単になっている。データ転送速度は、400-1000 Mビット/秒で、1 つのバスに63台までの機器を接続できる。特に「DV」と呼ばれるデジタルビデオカメラ用のインターフェースによく利用されている。

Kensington® Locks
Kensington®は、コンピュータのセキュリティ関連商品を取り扱っているメーカーである。Notebook PCを持ち去られないように金属製ワイヤで固定することができる製品もある。また、対象物を移動したときに音声で警報を発する製品もある。(日本のPC関連雑誌にも広告が記載)

用語集（続き）

Laser Classifications

レーザーは近年頻繁にまた広範囲に使用されるようになり、レーザー光線障害をユーザーに警告する必要性が重要になっている。この必要性を満たすため、レーザー分類が制定されている。現在の分類レベルは、光学的に安全で制御を必要としない(Class 1)から、極めて危険で厳しい制御を必要とする(Class 4)まで分類されている。

CLASS 1：Class 1レーザーまたはレーザーシステムは目に安全なレベルの光学的エネルギーを放射するため制御を必要としない。このクラスのレーザーシステムとしては、多くの食料品店で見られる清算スキャニング装置または光学ドライブで使用されるレーザーなどが挙げられる。

CLASS 2とCLASS 3A：Class 2とClass 3A レーザーは可視レーザーで、最大許容露光量(MPE)レベルより少し上の持続波(CW)光学的放射レベルを放射する。これらのレーザーは目に損傷を与えることもあるが、その明るさのため通常、観察者はすぐ目をそらすかまばたきをするため目に損傷を与えることはない。これらのレーザーは厳しい管理統制を行い、光線を直視しないよう警告する人員配置の標識が要求される。また、Class 3Aレーザーは光学補助デバイスで見てはならない。

CLASS 3B：Class 3Bレーザー、および2.5mWの出力を持つClass 3Aレーザーは光線路内にいて、光源を直視し、または正反射した光を見た場合、人体に害をおよぼすが、拡散反射は無害である。これらのレーザーは危険な拡散反射を引き起こさない。これらのレーザーを扱う作業員は、レーザーを操作している間、目を保護する適切な眼鏡をする必要がある。Class 3Bレーザーは作業員を保護するため、管理統制および物的管理を受け、物的管理には、作業区域の制限付き利用が含まれる。管理統制としては、レーザー作業領域の入り口外部に設置する警告標識、および域内でレーザーが使用中であることを外部に知らせる入り口外部の警告灯等の設置などが含まれる。

CLASS 4：Class 4レーザーは高出力レーザーで、ビーム内観察および、正反射または拡散反射により、目や皮膚に損傷を与える原因となる。Class 4レーザーを扱っている域内への立ち入りには、適切な保護眼鏡の着用が必要である。

PCI Bus (Peripheral Component Interconnect Local Bus)

データ転送用のバスとして定義される。今日では拡張カードの標準となっている。

POST (Power On Self Test)

ポスト：電源投入時の自己診断。コンピュータの電源を入れたとき、一番最初に実行される。POSTは、メモリ・マザーボード回路・ディスプレイ・キーボード・ディスクドライブおよび他の入出力装置をチェックする。

RAM (Random Access Memory)

ランダム・アクセス・メモリ：DRAM (Dynamic RAM), EDO DRAM (Extended Data Output DRAM), SDRAM (Synchronous DRAM)などの種類がある。

SATA (Serial Advanced Technology Attachment)

パソコンにハードディスクや光学ドライブを接続するためのインターフェース規格。

用語集（続き）

Suspend Mode

サスペンドモード：コンピュータの休止状態のことで、本製品では、Save-to-RAM(STR)状態のことをいう。CPUのクロックが停止し、電力消費は最低限に押さえられる。Notebook PCが一定時間アクセスされないと自動的にサスペンドモードに移行するようにBIOSセットアップで設定できる。また、Fnキーを用いて手動でサスペンドさせることも可能である。サスペンドモード中は、ノートパソコンの電源LEDが点滅する。

System Disk

システムディスク：OSの基本ファイルを含み、コンピュータとOSを起動するのに用いられる。

TPM (Trusted Platform Module) (特定モデル)

TPM は暗号化用にキーを作成するシステムボードのセキュリティハードウェアデバイス。ハードウェアベースのソリューションで、ハッカーによる攻撃から機密データを保護する。TPM によって、パソコン、ノートパソコンでのアプリケーションを起動をより安全に、トランザクションや通信の信頼性がより高くなる。

Twisted-Pair Cable

ツイストペアケーブル：より対線のこと。イーサネット用ケーブルに用いられており、TPE(Twisted Pair Ethernet)と呼ばれる。両端には、RJ-45コネクタが取り付けられており、ハブやネットワークカードに接続できるようになっている。(RJ-11＝電話機用コネクタとの違いに注意。互換性はない)

UltraDMA 66、UltraDMA 100

UltraDMA/66 、または 100 はIDE 転送率を向上させた仕様。IDEのデータシグナルの立ち上がりシングルエッジのみでデータを転送した従来のPIOモードとは異なり、UltraDMAでは、立ち上がりと立ち下がりの両方のエッジを用いてデータの転送速度を向上させている。Ultra ATAとも書く。

USB (Universal Serial Bus)

シリアルバスで、キーボード・マウス・ジョイスティック・スキャナ・プリンタ・モデム・ディスプレイなどのデータを 1種類の信号で共有できる、トークン方式のインターフェースである。他の機器が稼働中でもケーブルの抜き差しが出来る。1 つのケーブルで同期・非同期方式に対応しており、最大転送速度は12Mビット/秒である。USB2.0では、スピードが倍にあがり、これは、1394規格に匹敵する。

Declarations and Safety Statements

DVD-ROMドライブ情報

OSの種類によっては、DVDタイトルを表示するには、DVD再生ソフトウェアをインストールする必要があります。DVD再生ソフトウェアは、本ノートパソコンとともにお求めになることができます。またDVD-ROMドライブでは、CDとDVDディスクのどちらも使用することができます。

地域再生情報

DVDムービータイトルの再生には、MPEGビデオの復号、デジタルオーディオ、 CSS保護されたコンテンツの復号化が含まれます。CSS（コピーガードと呼ばれることもある）は動画産業が採用したコンテンツ保護計画の名称で、違法コピーを防ぐものです。

CSSライセンサに課された設計規則はたくさんありますが、もっとも適切な規則の一つは、地域化されたコンテンツに関する再生の制限です。場所によって異なるムービーのリリースを円滑にするために、DVDビデオタイトルは下の「地域定義」で定義された特定の地域に対してリリースされています。著作権法は、全てのDVDムービーを特定の地域（普通、販売されている地域に対してコード化されている）に限定するよう要求しており、DVDムービーコンテンツは、複数の地域でリリースされるので、CSSの設計規則はCSSで暗号化されたコンテンツを再生できるどのシステムも、一つの地域でしか再生できないようになっています。

注：地域設定は再生ソフトウェアを使用して、5回まで変更することができます。5 回変更後は、DVDムービーは最後の地域設定に対してのみ再生することができます。

地域定義

地域1
カナダ、米国、米国の領土

地域2
日本、チェコ、エジプト、フィンランド、フランス、ドイツ、ペルシア湾岸諸国、ハンガリー、アイスランド、イラン、イラク、アイルランド、イタリア、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、サウジアラビア、スコットランド、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、スイス、シリア、トルコ、イギリス、ギリシア、前ユーゴスラビア共和国、スロバキア

地域3
ビルマ、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナム

地域4
オーストラリア、西インド諸島（米国領土を除く）、中央アメリカ、ニュージーランド、太平洋諸島、南アメリカ大陸

地域5
CIS、インド、パキスタン、その他のアフリカ諸国、ロシア、朝鮮民主主義人民共和国

地域6
中国

内蔵モデムの適応規格(規格/プロトコルなど原文掲載)

The Notebook PC with internal modem model complies with JATE (Japan), FCC (US, Canada, Korea, Taiwan), and CTR21. The internal modem has been approved in accordance with Council Decision 98/482/EC for pan-European single terminal connection to the public switched telephone network (PSTN). However due to differences between the individual PSTNs provided in different countries, the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point. In the event of problems you should contact your equipment supplier in the first instance.

Overview

On 4th August 1998 the European Council Decision regarding the CTR 21 has been published in the Official Journal of the EC. The CTR 21 applies to all non voice terminal equipment with DTMF-dialling which is intended to be connected to the analogue PSTN (Public Switched Telephone Network).

CTR 21 (Common Technical Regulation) for the attachment requirements for connection to the analogue public switched telephone networks of terminal equipment (excluding terminal equipment supporting the voice telephony justified case service) in which network addressing, if provided, is by means of dual tone multifrequency signalling.

Network Compatibility Declaration

Statement to be made by the manufacturer to the Notified Body and the vendor: "This declaration will indicate the networks with which the equipment is designed to work and any notified networks with which the equipment may have inter-working difficulties"

Network Compatibility Declaration

Statement to be made by the manufacturer to the user: "This declaration will indicate the networks with which the equipment is designed to work and any notified networks with which the equipment may have inter-working difficulties. The manufacturer shall also associate a statement to make it clear where network compatibility is dependent on physical and software switch settings. It will also advise the user to contact the vendor if it is desired to use the equipment on another network."

Up to now the Notified Body of CETECOM issued several pan-European approvals using CTR 21. The results are Europe's first modems which do not require regulatory approvals in each individual European country.

Non-Voice Equipment

Answering machines and loud-speaking telephones can be eligible as well as modems, fax machines, auto-dialers and alarm systems. Equipment in which the end-to-end quality of speech is controlled by regulations (e.g. handset telephones and in some countries also cordless telephones) is excluded.

Internal Modem Compliancy (Cont.)

This table shows the countries currently under the CTR21 standard.

Country	Applied	More Testing
Austria[1]	Yes	No
Belgium	Yes	No
Czech Republic	No	Not Applicable
Denmark[1]	Yes	Yes
Finland	Yes	No
France	Yes	No
Germany	Yes	No
Greece	Yes	No
Hungary	No	Not Applicable
Iceland	Yes	No
Ireland	Yes	No
Italy	Still Pending	Still Pending
Israel	No	No
Lichtenstein	Yes	No
Luxemburg	Yes	No
The Netherlands[1]	Yes	Yes
Norway	Yes	No
Poland	No	Not Applicable
Portugal	No	Not Applicable
Spain	No	Not Applicable
Sweden	Yes	No
Switzerland	Yes	No
United Kingdom	Yes	No

This information was copied from CETECOM and is supplied without liability. For updates to this table, you may visit http://www.cetecom.de/technologies/ctr_21.html

[1] National requirements will apply only if the equipment may use pulse dialling (manufacturers may state in the user guide that the equipment is only intended to support DTMF signalling, which would make any additional testing superfluous).

In The Netherlands additional testing is required for series connection and caller ID facilities.

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a class B digital device, pursuant to Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING! The use of a shielded-type power cord is required in order to meet FCC emission limits and to prevent interference to the nearby radio and television reception. It is essential that only the supplied power cord be used. Use only shielded cables to connect I/O devices to this equipment. You are cautioned that changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void your authority to operate the equipment.

(Reprinted from the Code of Federal Regulations #47, part 15.193, 1993. Washington DC: Office of the Federal Register, National Archives and Records Administration, U.S. Government Printing Office.)

FCC Radio Frequency Interference Requirements

This device is restricted to INDOOR USE due to its operation in the 5.15 to 5.25GHz frequency range. FCC requires this product to be used indoors for the frequency range 5.15 to 5.25GHz to reduce the potential for harmful interference to co-channel of the Mobile Satellite Systems.

High power radars are allocated as primary user of the 5.25 to 5.35GHz and 5.65 to 5.85GHz bands. These radar stations can cause interference with and / or damage this device.

IMPORTANT! This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

FCC Radio Frequency (RF) Exposure Caution Statement

This equipment complies with FCC RF exposure limits set forth for an uncontrolled environment. To maintain compliance with FCC RF exposure compliance requirements, please follow operation instructions in the user's manual. This equipment is for operation within 5.15 GHz and 5.25GHz frequency ranges and is restricted to indoor environments only.

FCC Caution: Any changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment. "The manufacturer declares that this device is limited to Channels 1 through 11 in the 2.4GHz frequency by specified firmware controlled in the USA."

FCC RF Exposure Guidelines (Wireless Clients)

This device has been tested for compliance with FCC RF Exposure (SAR) limits in typical portable configurations. In order to comply with SAR limits established in the ANSI C95.1 standards, it is recommended when using a wireless LAN adapter that the integrated antenna is positioned more than [20cm] from your body or nearby persons during extended periods of operation. If the antenna is positioned less than [20cm] from the user, it is recommended that the user limit the exposure time.

R&TTE Directive (1999/5/EC)

The following items were completed and are considered relevant and sufficient for the R&TTE (Radio & Telecommunications Terminal Equipment) directive:

- Essential requirements as in [Article 3]
- Protection requirements for health and safety as in [Article 3.1a]
- Testing for electric safety according to [EN 60950]
- Protection requirements for electromagnetic compatibility in [Article 3.1b]
- Testing for electromagnetic compatibility in [EN 301 489-1] & [EN 301]
- Testing according to [489-17]
- Effective use of the radio spectrum as in [Article 3.2]
- Radio test suites according to [EN 300 328-2]

CE Mark Warning

This is a Class B product, in a domestic environment, this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

Wireless Operation Channel for Different Domains

N. America	2.412-2.462 GHz	Ch01 through CH11
Japan	2.412-2.484 GHz	Ch01 through Ch14
Europe ETSI	2.412-2.472 GHz	Ch01 through Ch13

France Restricted Wireless Frequency Bands

Some areas of France have a restricted frequency band. The worst case maximum authorized power indoors are:

- 10mW for the entire 2.4 GHz band (2400 MHz–2483.5 MHz)
- 100mW for frequencies between 2446.5 MHz and 2483.5 MHz

Channels 10 through 13 inclusive operate in the band 2446.6 MHz to 2483.5 MHz.

There are few possibilities for outdoor use: On private property or on the private property of public persons, use is subject to a preliminary authorization procedure by the Ministry of Defense, with maximum authorized power of 100mW in the 2446.5–2483.5 MHz band. Use outdoors on public property is not permitted.

In the departments listed below, for the entire 2.4 GHz band:

- Maximum authorized power indoors is 100mW
- Maximum authorized power outdoors is 10mW

Departments in which the use of the 2400–2483.5 MHz band is permitted with an EIRP of less than 100mW indoors and less than 10mW outdoors:

01 Ain Orientales	02 Aisne	03 Allier	05 Hautes Alpes
08 Ardennes	09 Ariège	11 Aude	12 Aveyron
16 Charente	24 Dordogne	25 Doubs	26 Drôme
32 Gers	36 Indre	37 Indre et Loire	41 Loir et Cher
45 Loiret	50 Manche	55 Meuse	58 Nièvre
59 Nord	60 Oise	61 Orne	63 Puy du Dôme
64 Pyrénées Atlantique	66 Pyrénées	67 Bas Rhin	68 Haut Rhin
70 Haute Saône	71 Saône et Loire	75 Paris	82 Tarn et Garonne
84 Vaucluse	88 Vosges	89 Yonne	90 Territoire de Belfort
94 Val de Marne			

This requirement is likely to change over time, allowing you to use your wireless LAN card in more areas within France. Please check with ART for the latest information (www.art-telecom.fr)

Your WLAN Card transmits less than 100mW, but more than 10mW.

UL Safety Notices

Required for UL 1459 covering telecommunications (telephone) equipment intended to be electrically connected to a telecommunication network that has an operating voltage to ground that does not exceed 200V peak, 300V peak-to-peak, and 105V rms, and installed or used in accordance with the National Electrical Code (NFPA 70).

When using the Notebook PC modem, basic safety precautions should always be followed to reduce the risk of fire, electric shock, and injury to persons, including the following:

- **Do not use** the Notebook PC near water, for example, near a bath tub, wash bowl, kitchen sink or laundry tub, in a wet basement or near a swimming pool.
- **Do not use** the Notebook PC during an electrical storm. There may be a remote risk of electric shock from lightning.
- **Do not use** the Notebook PC in the vicinity of a gas leak.

Required for UL 1642 covering primary (non-rechargeable) and secondary (rechargeable) lithium batteries for use as power sources in products. These batteries contain metallic lithium, or a lithium alloy, or a lithium ion, and may consist of a single electrochemical cell or two or more cells connected in series, parallel, or both, that convert chemical energy into electrical energy by an irreversible or reversible chemical reaction.

- **Do not** dispose the Notebook PC battery pack in a fire, as they may explode. Check with local codes for possible special disposal instructions to reduce the risk of injury to persons due to fire or explosion.
- **Do not** use power adapters or batteries from other devices to reduce the risk of injury to persons due to fire or explosion. Use only UL certified power adapters or batteries supplied by the manufacturer or authorized retailers.

Power Safety Requirement

Products with electrical current ratings up to 6A and weighing more than 3Kg must use approved power cords greater than or equal to: H05VV-F, 3G, 0.75mm^2 or H05VV-F, 2G, 0.75mm^2.

電気・電子機器に含有される化学物質の表示について

資源有効利用促進法では、JIS C 0950: 2008（J-Moss）の定める規格により、製造元に対し特定の電気・電子機器に含まれる化学物質の情報提供を義務付けています。J-Moss とは、電気・電子機器に含有される化学物質の表示に関するJIS規格の略称で、正式名称は「The marking when content other than exemption does not exceed reference value of percentage content（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）」です。なお、この規格は2008年８月１日より適用されます。

この規格に関する詳細情報はASUSのサイト（http://green.asus.com/english/）に記載の「The marking when content other than exemption does not exceed reference value of percentage content（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）」をご参照ください。

A 付録

Nordic Lithium Cautions（リチウムバッテリについて）

CAUTION! Danger of explosion if battery is incorrectly replaced. Replace only with the same or equivalent type recommended by the manufacturer. Dispose of used batteries according to the manufacturer's instructions. (English)

ATTENZIONE! Rischio di esplosione della batteria se sostituita in modo errato. Sostituire la batteria con un una di tipo uguale o equivalente consigliata dalla fabbrica. Non disperdere le batterie nell'ambiente. (Italian)

VORSICHT! Explosionsgefahr bei unsachgemäßen Austausch der Batterie. Ersatz nur durch denselben oder einem vom Hersteller empfohlenem ähnlichen Typ. Entsorgung gebrauchter Batterien nach Angaben des Herstellers. (German)

ADVARSELI! Lithiumbatteri - Eksplosionsfare ved fejlagtig håndtering. Udskiftning må kun ske med batteri af samme fabrikat og type. Levér det brugte batteri tilbage til leverandøren. (Danish)

VARNING! Explosionsfara vid felaktigt batteribyte. Använd samma batterityp eller en ekvivalent typ som rekommenderas av apparattillverkaren. Kassera använt batteri enligt fabrikantens instruktion. (Swedish)

VAROITUS! Paristo voi räjähtää, jos se on virheellisesti asennettu. Vaihda paristo ainoastaan laitevalmistajan sousittelemaan tyyppiin. Hävitä käytetty paristo valmistagan ohjeiden mukaisesti. (Finnish)

ATTENTION! Il y a danger d'explosion s'il y a remplacement incorrect de la batterie. Remplacer uniquement avec une batterie du mêre type ou d'un type équivalent recommandé par le constructeur. Mettre au rebut les batteries usagées conformément aux instructions du fabricant. (French)

ADVARSEL! Eksplosjonsfare ved feilaktig skifte av batteri. Benytt samme batteritype eller en tilsvarende type anbefalt av apparatfabrikanten. Brukte batterier kasseres i henhold til fabrikantens instruksjoner. (Norwegian)

注意：バッテリの交換は正しく行ってください。破裂する危険があります。交換の際は、メーカーが指定したバッテリをお使いください。また、廃棄の際は家庭ゴミとまとめて捨てずに、最寄の廃棄物処理施設等に問い合わせ、バッテリの処分方法を確認してください。(Japanese)

重要：モデルにより、ノートパソコンのディスプレイパネルで使用されているコンポーネントが水銀を含む場合があります。廃棄の際は、地方自治体の廃棄処理に関する条例または規則等に従って下さい。

Optical Drive Safety Information

Laser Safety Information

Internal or external optical drives sold with this Notebook PC contains a CLASS 1 LASER PRODUCT. Laser classifications can be found in the glossary at the end of this user's manual.

WARNING! Making adjustments or performing procedures other than those specified in the user's manual may result in hazardous laser exposure. Do not attempt to disassemble the optical drive. For your safety, have the optical drive serviced only by an authorized service provider.

Service warning label

CAUTION! INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. DO NOT STARE INTO BEAM OR VIEW DIRECTLY WITH OPTICAL INSTRUMENTS.

CDRH Regulations

The Center for Devices and Radiological Health (CDRH) of the U.S. Food and Drug Administration implemented regulations for laser products on August 2, 1976. These regulations apply to laser products manufactured from August 1, 1976. Compliance is mandatory for products marketed in the United States.

WARNING! Use of controls or adjustments or performance of procedures other than those specified herein or in the laser product installation guide may result in hazardous radiation exposure.

Macrovision Corporation Product Notice

This product incorporates copyright protection technology that is protected by method claims of certain U.S.A. patents and other intellectual property rights owned by Macrovision Corporation and other rights owners. Use of this copyright protection technology must be authorized by Macrovision Corporation, and is intended for home and other limited viewing uses only unless otherwise authorized by Macrovision Corporation. Reverse engineering or disassembly is prohibited.

A 付録

CTR 21 Approval（モデム内蔵型ノートパソコン）

Danish

»Udstyret er i henhold til Rådets beslutning 98/482/EF EU-godkendt til at blive opkoblet på de offentlige telefonnet som enkeltforbundet terminal. På grund af forskelle mellem de offentlige telefonnet i de forskellige lande giver godkendelsen dog ikke i sig selv ubetinget garanti for, at udstyret kan fungere korrekt på samtlige netterminerings punkter på de offentlige telefonnet.

I tilfælde af problemer bør De i første omgang henvende Dem til leverandøren af udstyret.«

Dutch

„Dit apparaat is goedgekeurd volgens Beschikking 98/482/EG van de Raad voor de pan-Europese aansluiting van enkelvoudige eindapparatuur op het openbare geschakelde telefoonnetwerk (PSTN). Gezien de verschillen tussen de individuele PSTN's in de verschillende landen, biedt deze goedkeuring op zichzelf geen onvoorwaardelijke garantie voor een succesvolle werking op elk PSTN-netwerkaansluitpunt.

Neem bij problemen in eerste instantie contact op met de leverancier van het apparaat.".

English

'The equipment has been approved in accordance with Council Decision 98/482/EC for pan-European single terminal connection to the public switched telephone network (PSTN). However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries, the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.'

French

«Cet équipement a reçu l'agrément, conformément à la décision 98/482/CE du Conseil, concernant la connexion paneuropéenne de terminal unique aux réseaux téléphoniques publics commutés (RTPC). Toutefois, comme il existe des différences d'un pays à l'autre entre les RTPC, l'agrément en soi ne constitue pas une garantie absolue de fonctionnement optimal à chaque point de terminaison du réseau RTPC.

En cas de problème, vous devez contacter en premier lieu votre fournisseur.»

German

„Dieses Gerät wurde gemäß der Entscheidung 98/482/EG des Rates europaweit zur Anschaltung als einzelne Endeinrichtung an das öffentliche Fernsprechnetz zugelassen. Aufgrund der zwischen den öffentlichen Fernsprechnetzen verschiedener Staaten bestehenden Unterschiede stellt diese Zulassung an sich jedoch keine unbedingte Gewähr für einen erfolgreichen Betrieb des Geräts an jedem Netzabschlußpunkt dar.

Falls beim Betrieb Probleme auftreten, sollten Sie sich zunächst an ihren Fachhändler wenden."

Italian

«La presente apparecchiatura terminale è stata approvata in conformità della decisione 98/482/CE del Consiglio per la connessione paneuropea come terminale singolo ad una rete analogica PSTN. A causa delle differenze tra le reti dei differenti paesi, l'approvazione non garantisce però di per sé il funzionamento corretto in tutti i punti di terminazione di rete PSTN.

In caso di problemi contattare in primo luogo il fornitore del prodotto.»

Portuguese

«Este equipamento foi aprovado para ligação pan-europeia de um único terminal à rede telefónica pública comutada (RTPC) nos termos da Decisão 98/482/CE. No entanto, devido às diferenças existentes entre as RTPC dos diversos países, a aprovação não garante incondicionalmente, por si só, um funcionamento correcto em todos os pontos terminais da rede da RTPC.

Em caso de problemas, deve entrar-se em contacto, em primeiro lugar, com o fornecedor do equipamento.»

Spanish

«Este equipo ha sido homologado de conformidad con la Decisión 98/482/CE del Consejo para la conexión paneuropea de un terminal simple a la red telefónica pública conmutada (RTPC). No obstante, a la vista de las diferencias que existen entre las RTPC que se ofrecen en diferentes países, la homologación no constituye por sí sola una garantía incondicional de funcionamiento satisfactorio en todos los puntos de terminación de la red de una RTPC.

En caso de surgir algún problema, procede ponerse en contacto en primer lugar con el proveedor del equipo.».

Japanese Notice

本装置は、第二種情報装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)基準に適合しております。

しかし、本装置をラジオ、テレビジョン受信機に、近接してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。本書の説明にしたがって正しい取り扱いをしてください。

Japanese Modem Notice

本製品を日本で使用する場合は必ず日本国モードでご使用ください。他国のモードをご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反す行為となります。なお、ご購入時は初期値が日本国モードとなっておりますので、そのままご利用ください。

オーナー情報

テクニカルサポートを受けるときの参照用にパソコンの情報を記録しておいてください。
ここにパスワードを記載した場合には、本書の取り扱いにご注意ください。

名前:_____ **電話番号:**_____

製品名:_____ **型番:** _____ **シリアルナンバー:** _____

ディスプレイサイズ: _____ **解像度:** _____ **メモリサイズ:** _____

販売店:_____ **支店名:** _____ **購入日:** _____

ハードディスクメーカー: _____ **容量:** _____

光学ドライブメーカー: _____ **タイプ:**_____

BIOS バージョン: _____ **日付:**_____

アクセサリ:_____

アクセサリ:_____

ソフトウェア

OS:_____

バージョン: _____**シリアルナンバー:** _____

ソフトウェア:_____ **バージョン:** _____ **シリアルナンバー:**_____

ソフトウェア:_____ **バージョン:** _____ **シリアルナンバー:**_____

セキュリティー

管理者名: _____ **管理者パスワード:**_____

ユーザーネーム: _____ **ユーザーパスワード:**_____

ネットワーク

ユーザーネーム: _____ **パスワード:** _____ **ドメイン:** _____

Copyright について

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証も行いません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、内容は予告なしに 変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

Copyright © 2008 ASUSTeK Computer, Inc. All Rights Reserved.

責任制限

この責任制限はASUSの、或は他の責任の不履行により、ユーザーがASUSから損害賠償を受ける権利が生じた場合に発生します。

このようなケースが発生した場合は、ユーザーのASUSに損害賠償を請求する権利の有無にかかわらず、ASUSは肉体的損害（死亡したケースを含む）と不動産及び有形動産への損害のみに賠償責任を負います。或は、それぞれの製品の記載された協定価格を限度とし、「Warranty Statement」のもとに生じる法的義務の不作為または不履行に起因するいかなる実害と直接的な被害のみに対して賠償責任を負います。

ASUSは「Warranty Statement」に基づき、不法行為または侵害行為が発生した場合と、契約に基づく損失や損害が生じた場合及びその主張に対してのみ賠償し、責任を負います。

この責任制限は、ASUSの供給者または販売代理店にも適用されます。賠償の際は、ASUSとその供給者及び購入した販売代理店を一集合体としてその限度額を定めており、その限度額に応じた賠償が行われます。

以下のケースに対しては、ASUSとその供給者及び販売代理店がその可能性を指摘されている場合においても、 ASUSはいかなる賠償及び保証を行いません。

(1) ユーザーが第三者から請求されている申し立て (2) ユーザーの個人情報やデータの損失
(3) 特殊、偶発的、或は間接的な損害、または 貯蓄や諸利益を含むあらゆる結果的な経済的損害

サービスとサポート

マルチ言語サポートサイトを開設しました。下のリンクで「Language」から「Japanese」を選択してください。

http://support.asus.com